

昭和50年度

—勝沼バイパス道路建設に伴う—

大切遺跡発掘調査報告書

1977.3

山梨県教育委員会

# 序 文

甲府盆地の東部の峠東地方は、国衛（現御坂町）・国府（現春日居町）・国分（現一宮町）等の地名が残っており、その名が示すとおり、古代の甲斐の国の政治及び文化の中心地であったことが想定されます。この地方の過去の発掘調査では山梨市八日市場遺跡（日下部中学校校庭遺跡）・七日子遺跡があります。また最近では、昭和47年度以降勝沼バイパス建設予定地の緊急調査として調査された東八代郡石和町から同郡一宮町の間に、奈良時代から平安時代にかけての集落の一部が多く発見されています。今回の<sup>大切な</sup>大発見の発掘調査の結果扇状地上に営まれた奈良時代の竪穴住居址1、平安時代の竪穴住居址7軒を検出し、多くの資料を得ることができました。古代甲斐国の解明に、また学術、学習面等の幅広い活用を願れば幸いです。

最後に本遺跡の発掘調査に際し、建設省甲府工事事務所、勝沼町教育委員会の皆様には、一方ならぬ御尽力と御協力をいただきましたことに対し、深甚なる謝意を表す次第であります。

昭和52年3月

山梨県教育委員会教育長 丸 茂 高 男

## 例　　言

1. 本書は建設省が勝沼バイパス（国道20号線）建設工事に伴う緊急調査の報告書である。
2. 発掘調査は建設省と山梨県教育委員会との委託契約により実施されたものである。
3. 発掘調査は昭和50年9月2日から同年10月6日まで行った。
4. 本調査の調査組織は、別に示すとおりである。
5. 本調査の遺物洗いは、発掘に参加した補助調査員並びに作業員の全員で行った。
6. 本調査の遺物の注記・土器の復原作業、及び実測は、山崎金夫、佐野勝広（国士館大学）山池恭之助（日本大学）保坂康夫（広島大学）が行った。
7. 図面のトレースは山崎、佐野が行い、写真撮影、執筆及び編集は山崎が当った。
8. 発掘及び遺物整理においては山本寿々雄氏、末木健氏、森本圭一氏から種々の御指導、御協力をいただき、厚く御礼申し上げる次第です。

### 調査組織

- I 調査主体者 山梨県教育委員会  
II 調査担当者 菊島美夫（日本考古学协会会员）  
III 調査員 山崎金夫 森本圭一  
IV 補助調査員 山本敏子  
　　　　　中川栄祐 大野 悟  
V 作業員 飯島保永 大野 悟  
（順不同） 中川かね子 関本てるよ  
　　　　　飯島絹子 藤原 茂子  
　　　　　深沢かめよ  
　　　　　向山まさ江 網倉征子  
　　　　　依田けさ子  
　　　　　その他  
事務局 山梨県教育委員会教育長 丸 茂 高 男  
　　　　　山梨県教育委員会文化課長 山 寺 勉

# 目 次

序		
例 言		
第 1 章	調査の経過.....	1
第 2 章	遺跡の位置と環境 .....	1
第 3 章	調査の概要.....	4
第 4 章	遺構と遺物.....	6
	1号住居跡.....	6
	2号住居跡.....	10
	3号住居跡.....	12
	4号住居跡.....	16
	5号住居跡.....	20
	6号住居跡.....	25
	7号住居跡.....	27
	8号住居跡.....	30
	竪穴住居址一覧表 .....	35
	住居址内出土遺物器種及び個体数分類表（推計）.....	35
	遺物一覧表.....	36
結 語	.....	44

## 挿 図 目 次

第 1 図	遺 跡 位 置 図	2
第 2 図	大切遺跡トレンチ設定図	3
第 3 図	9号トレンチセクション図	4
第 4 図	住居址出土状況	5
第 5 図	1号住居址	7
第 6 図	1号住居址カマド	7
第 7 図	1号住居址遺物出土図	8
第 8 図	1号住居址出土遺物	9
第 9 図	2号住居址	10
第 10 図	2号住居址遺物出土図	11
第 11 図	2号住居址出土遺物	12
第 12 図	3号住居址	13
第 13 図	3号住居址カマド	14
第 14 図	2号住居址遺物出土図	14
第 15 図	3号住居址出土遺物	15
第 16 図	4号住居址	17
第 17 図	4号住居址カマド	18
第 18 図	4号住居址遺物出土図	18
第 19 図	4号住居址出土遺物	19
第 20 図	5号住居址	20
第 21 図	5号住居址カマド	22
第 22 図	5号住居址遺物出土図	22
第23-1図	5号住居址出土遺物	23
第23-2図	5号住居址出土遺物	24
第 24 図	6号住居址	25
第 25 図	6号住居址出土遺物	26
第 26 図	7号住居址	27
第 27 図	7号住居址遺物出土図	28
第 28 図	7号住居址出土遺物	29
第 29 図	8号住居址	30
第 30 図	8号住居址カマド	31
第 31 図	8号住居址遺物出土図	32
第 32 図	8号住居址出土遺物	33
第 33 図	トレンチ出土遺物	34

## 図版目次

- 図版 1 (1) 大切遺跡遠景  
(2) 大切遺跡西側より
- 図版 2 (1) 1号住居址  
(2) 1号住居址遺物出土状況
- 図版 3 (1) 2号住居址  
(2) 3号住居址
- 図版 4 (1) 3号住居址カマド  
(2) 2号、3号住居址
- 図版 5 (1) 4号住居址  
(2) 4号住居址カマド
- 図版 6 (1) 2、3、4号住居址  
(2) 5号住居址
- 図版 7 (1) 6号住居址  
(2) 7号住居址
- 図版 8 (1) 8号住居址  
(2) 8号住居址カマド
- 図版 9 1号住居址出土遺物(1)(2)
- 図版 10 1号住居址出土遺物(3)(4)
- 図版 11 2号、3号住居址出土遺物(上段2号(1)、下段3号(1))
- 図版 12 3号住居址出土遺物(2)(3)
- 図版 13 4号住居址出土遺物(1)(2)
- 図版 14 5号住居址出土遺物(1)
- 図版 15 5号住居址出土遺物(2)(3)
- 図版 16 5号住居址出土遺物(4)(5)
- 図版 17 5号、6号住居址出土遺物(上段5号(6)、下段6号(1))
- 図版 18 6号、7号住居址出土遺物(上段6号(2)、下段7号(1))
- 図版 19 8号住居址出土遺物(1)(2)
- 図版 20 トレンチ出土遺物(1)(2)

## 第1章 調査の経過

大切遺跡の発掘調査は、建設省が勝沼バイパス（国道20号線）の建設のため、県教育委員会に委託をし緊急発掘調査として実施したものである。以下事務的な経過を列挙すると次のとおりである。

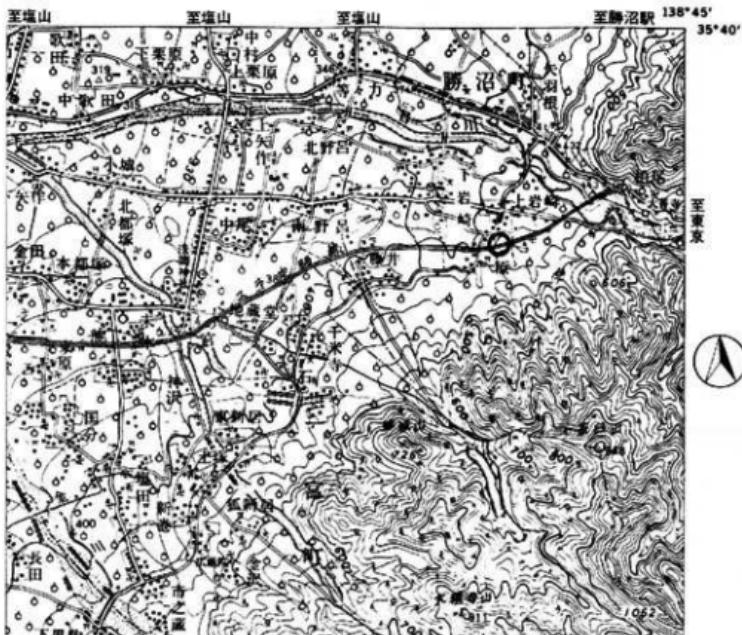
50. 5. 13 建設省甲府工事事務所長から県教委に勝沼バイパス建設工事（勝沼町地内）に伴う遺跡発掘調査の依頼  
50. 7. 4 県教委から建設省甲府工事事務所長に発掘調査の受託の回答  
50. 7. 10 建設省甲府工事事務所長から文化庁長官へ文化財保護法第57条の二による埋蔵文化財発掘届を提出  
50. 7. 25 建設省甲府工事事務所長から県教委へ発掘調査委託契約の協議  
50. 7. 28 文化財保護法第57条の二による発掘届を文化庁長官へ届出  
50. 8. 22 建設省関東地方建設局長と山梨県教育委員会教育長で発掘調査委託契約を結ぶ。  
50. 9. 2 大切遺跡発掘調査の開始  
50. 10. 6 大切遺跡発掘調査の終了  
50. 11. 19 大切遺跡埋蔵物発見届を塩山警察署長に提出  
51. 3. 23 勝沼バイパス埋蔵文化財発掘調査昭和50年度分費用精算及び調査の成果報告書を建設省関東地方建設局長へ提出  
51. 6. 4 建設省甲府工事事務所長から報告書刊行のための依頼  
51. 7. 3 報告書刊行のため建設省関東地方建設局長へ経費予算及び計画書を送付。  
52. 1 報告書刊行のための建設省関東地方建設局長と山梨県教育委員会教育長と契約を結ぶ。  
52. 3. 25 報告書印刷  
52. 3. 31 報告書刊行

## 第2章 遺跡の位置と環境

大切遺跡は甲府盆地の東端、山梨県東山梨郡勝沼町大字上岩崎にある。一級河川日川が山間の渓谷を洗いながら流れてきて、この附近になると急に展望が開け流れがいくらかゆるやかになる。川の両岸は河岸段丘である。遺跡は南面の茶臼山（948m）の山麓がせまっており、遺跡の北側を流れる矢沢川によって作られた小規模な扇状地の中央部に位置している。また遺跡のすぐ南には田草川の支流が流れている。標高は415m～430mである。現在ではこの附近一帯は開墾され一面葡萄畑になっており、甲州葡萄の主産地で、夏から初冬にかけて道路沿いなど多くの観光客で賑わっている。

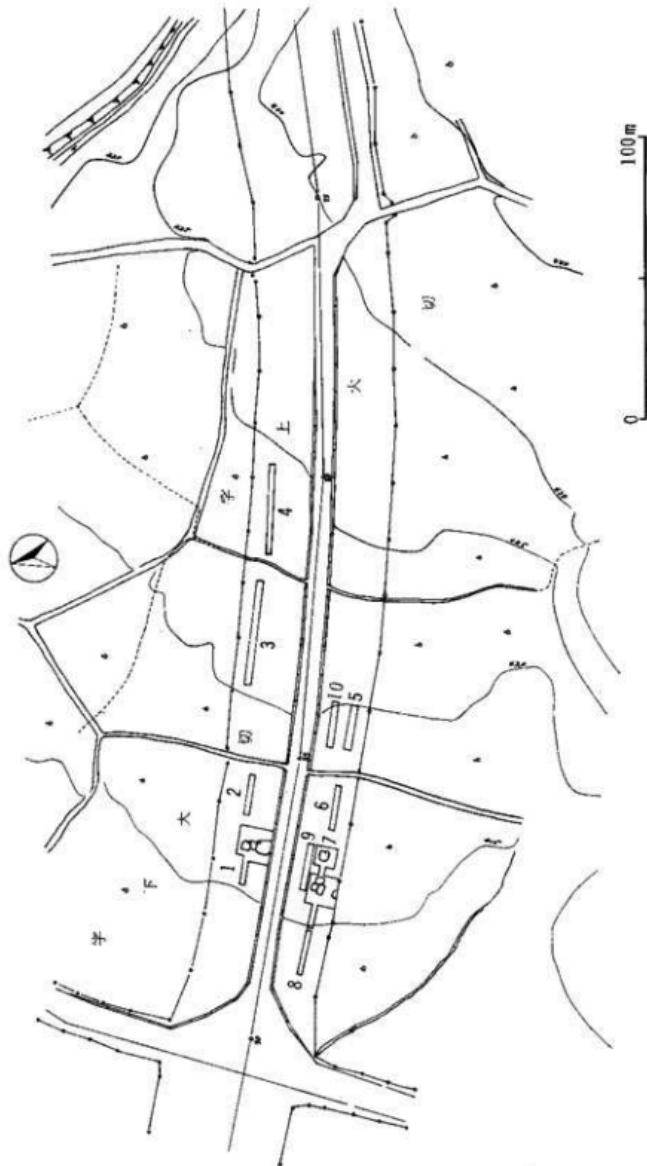
歴史的には遺跡の50メートルほど南方には、その昔甲斐源氏の一族であり、宗家の武田家を助けこの地方に勢力を振った岩崎氏の氏神、永川神社が祭られている。また遺跡の北約1キロメートルには、旧甲州街道（現在の国道20号線）が東西に走っている。その街道沿いには名刹、柏尾山大善寺（真言宗・本堂は国宝）があり、この寺域東側の川を隔てた白山平からは康和5年在銘銅製の経筒が出土している。

註 (1) 山本寿々雄「山梨県の考古学」 昭和43年8月20日、吉川弘文館



第1図 遺跡位置図 ○印大切遺跡  $s = \frac{1}{3000}$

第2図 大切遮断トレーンチ設定図



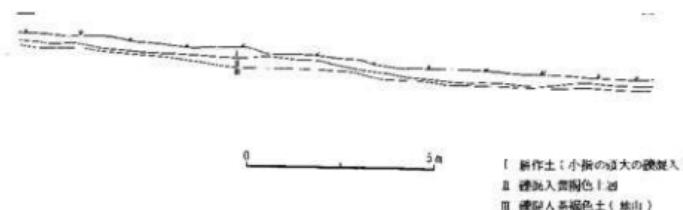
### 第3章 調査の概要

たいたい

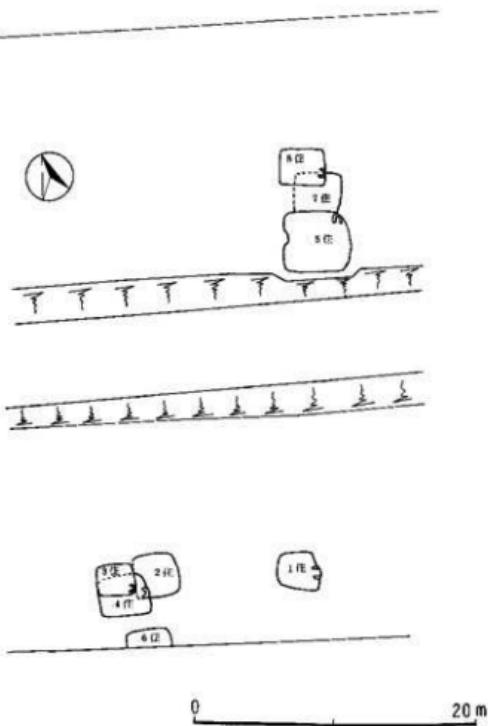
大切遺跡は遺跡の北側を流れる矢沢川によって作られた西斜面の扇状地の中央部に営まれた遺跡である。地質は河川によって運搬され、土砂の堆積した扇状地のため遺跡の場所によっては親指大の礫が耕作土に非常に多く混入している箇所もある。またこの辺の土質(1層・2層)は土の粒子は細かくやや粉状のものに小さな礫の混入しているため、土は乾くと非常に固くなり、掘りにくく、一度雨水を含むと泥々になるようであり、折からの13年ぶりの残暑の陽に焼かれ調査は思うように進まなかった。

調査は遺物の分布状況、地形地質並びに擾乱を考慮してトレンチを設定するものとした。遺物の分布状況は、3・4号トレンチ北部の葡萄畠及び住居址の出土した1号及び7号トレンチからその南部の葡萄畠に多く散布していた。トレンチ調査の結果、3・4号トレンチ附近では遺物は土師器(国分)が若干出土したにすぎず、むしろその北部の葡萄畠からの流れたものであると想定される。また、8号トレンチからは東側の隅に土製壺が出土したが、そのほかの遺物は階無といっていいほどであった。層序は第3図に9号トレンチのセクション図を示してあるが、第1層は耕作土で小指の頭大の礫が混入している。第2層は黄褐色土層で同じく小指の頭大の礫が混入している。第3層は茶褐色土層で部分的に礫が混入しており、竪穴住居址はこの層を掘込んで作られている。第3層までの表以下は、4号トレンチで約40cm、1号トレンチで約50cm、5号トレンチで約50cm、9号トレンチで40cm、8号トレンチで約38cmであった。また葡萄栽培のための苗の植付け及び施肥のための擾乱はこの第3層まで及んでいた。

調査の結果は竪穴住居址8軒を調査することができた。



第3図 9号トレンチセクション図



第4圖 住居址出土狀況

## 第4章 遺構と遺物

### I号住居址

本住居址は表土下、東壁附近で約35cm、西壁附近で約23cmで落ち込みが確認された。(第5図)

○プラン やや不整形ではあるが隅丸方形を示すものと考えられる。

○主 軸 N - 16° - E

○柱 穴 な し

○周 溝 な し

○ 壁 壁は外傾し、東壁は高さ16cm、北、南壁は高さ約3cmを計る。南壁はやや残存状況は悪い。西壁は一部しか検出できなかったが床面の残存状況が良かったため、住居の範囲ははっきり確認できた。

○床 面 床面は固くバリバリで踏み固められていた。また地山である茶褐色土肩に混入している礫が露出している。

○カマド 東壁中央やや南より位置し、粘土と河原石で作られていた。焚口で36cm、奥行62cmを計る。(第6図)

○遺物の出土状況 本住居址出土土器のうち、完形土器は、北壁近くとカマド右袖上から前者は杯が後者は皿が出土している。破片は床面北東面とカマドならびにカマド右側の凹地(深さ10cm)に出土している。(第7図)

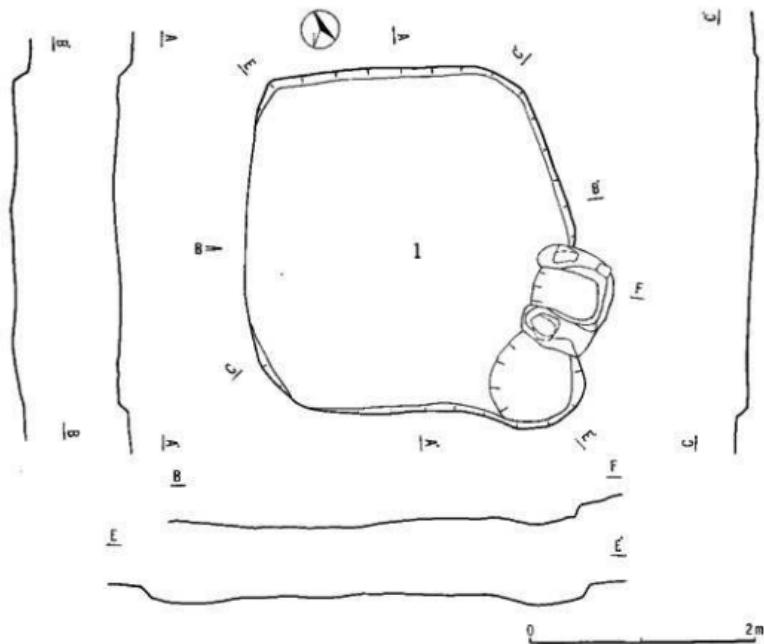
### 出土遺物(第8図)

1～5は土師器の皿である。1の口縁部は外傾する。2～5はいづれも口縁部は多少の差はあるが外反して平縁状をなしている。胸部にはロクロ横ナデによる棱を数本有する。また3、4は器面外面下部にヘラ削りを施し、底部を縮少している。4は完形でカマド右袖上に載せられていた。

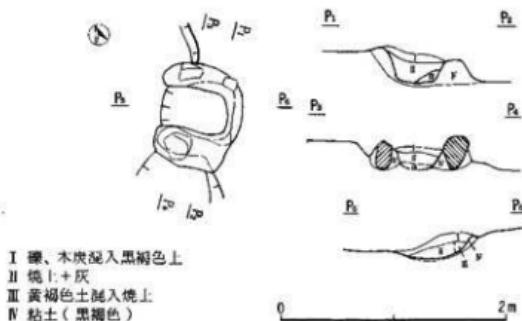
6、7は土師器の杯である。両方とも口縁部は外反するが、6は口縁部が平縁状を呈し、7は口縁部がやや尖る。

8～11は土師器の裏と思われる。8、9はカマド内から出土した口縁部の破片であるが、口縁部に粘土の貼付を有する。10は小型の裏と思われる。11は刷毛目整形が器面の外面と内面では工具を変えている。

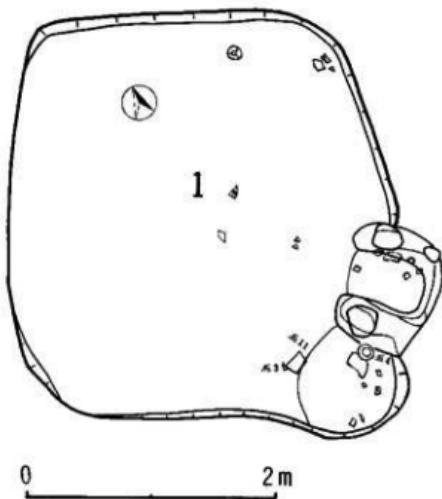
このほか図示できないが灰釉陶器(長頸壺)と須恵の裏が1点づつ出土している。



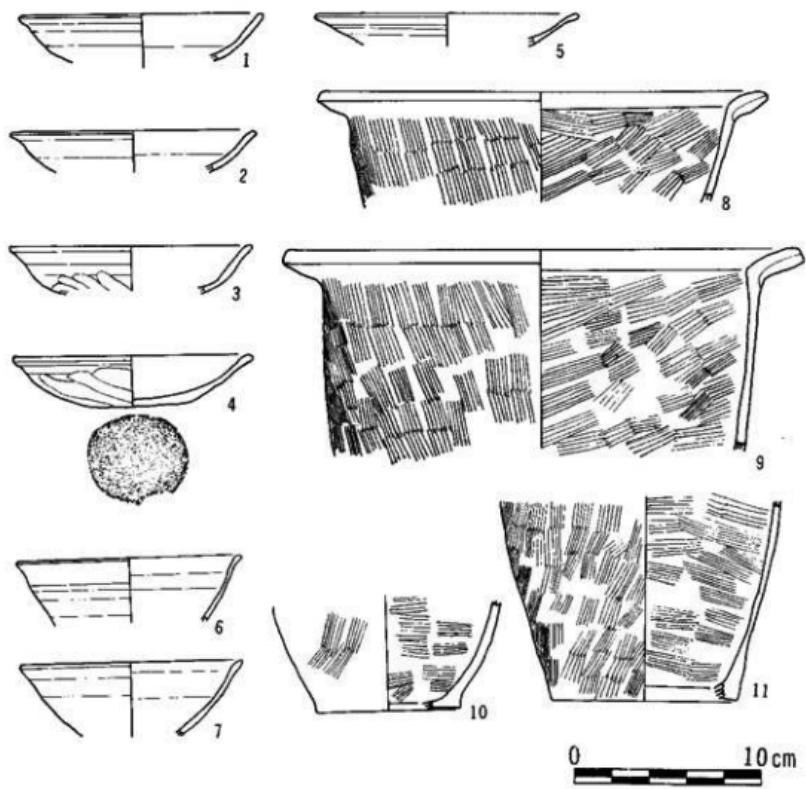
第5図 1号住居址



第6図 1号住居址 カマド



第7図 1号住居址遺物出土図

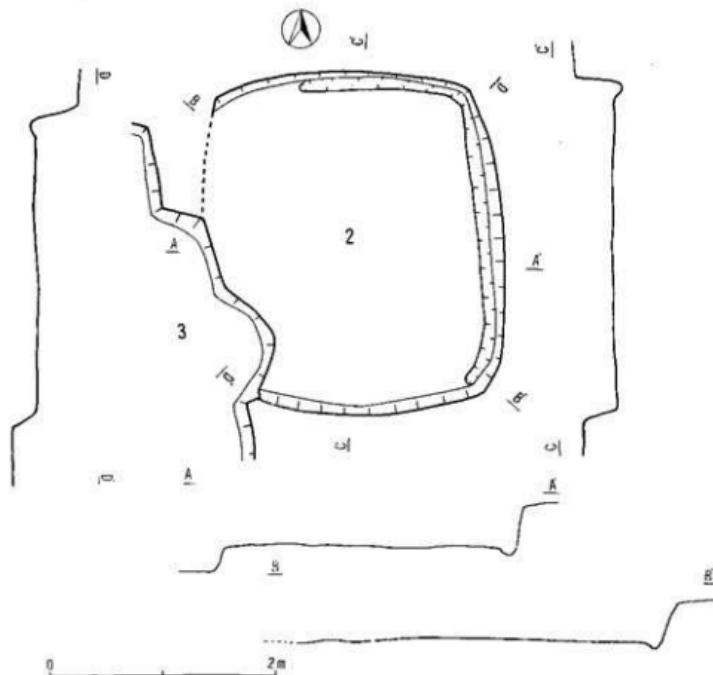


第8図 1号住居址出土遺物

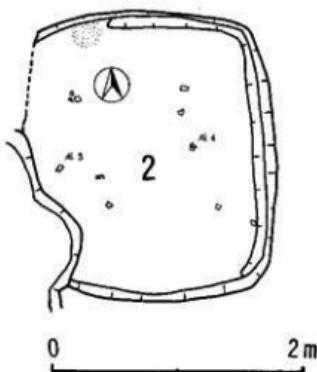
## 2号住居址

表土下約37cmで落ち込みが発見された、住居址西側は4号住居址により切られていた。(第9図)

- プラン 隅丸方形と推定される。
- 主 軸 N - 3° - W。
- 柱 穴 なし
- 周 溝 東壁と北壁の半分に検出でき、幅10cm~15cm、深さ6cm~10cmを計る。
- 壁 壁は東壁で38cm高さ前後、南、北壁で高さ30cm前後である。西壁の南半分は4号住居により切られており、北半分は明確に検出できなかった。
- 床 面 床面は東半分が踏み固められ固く、西半分はやや軟弱であった。また全体に凹凸が少く平坦であった。



第9図 2号住居址



第10図 2号住居址遺物出土図

- カマド カマドは検出確認されなかったが、北壁、西よりの部分に焼土が堆積していた。
- 造物の出土状況 土器は全体的に少なく真間期の土器が床面直上及びその附近から出土している。覆土中からは国分期の土器片が出土している。住居の構築時期は真間期と思われる。住居址内全体から木炭片が出土している。出土土器は全体に少なかった。

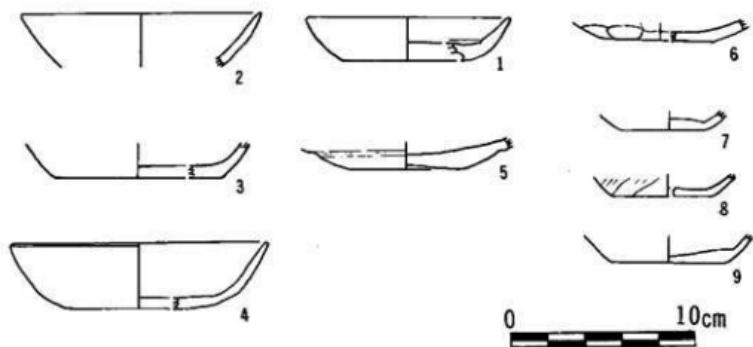
#### 出土遺物（第11図）

本住居の出土建物は床面直上では真間期のものであるが、覆土からは国分期の土師器片も出土している。真間期の上器の個体数は比較的少なかった。

1は土師器の皿で口縁部は尖っており底部は厚い。

2～6は土師器の杯である。杯はいづれも口縁部が尖っており、胴部はヘラで磨かれ、底部は大きい。5の底部はやや上っており、胎土は精々されている。

7～9は覆土中より出土したものであり、杯の底部と思われる。8は胴部にヘラ削りが認められ、底部には焼成後底部外面から内面へ孔があけられている。（1～4、真間期、5～9、国分期）



第11図 2号住居址出土遺物

### 3号住居址

本住居址は表土下東壁附近で約62.5cm、西壁附近で約30cmで落ち込みが確認された。住居址南側が半分以上4号住居を切り込んで作られていた。(第12図)

○プラン 隅丸長方形を呈するものと思われ東壁1.9m、西壁1.9m、南壁2.6m、北壁2.4mを計る。

○主軸 N-6°-E

○柱穴 なし

○周溝 なし

○壁 東壁、南壁が高さ約20cm、北壁、西壁は高さ約18cmを計り、やや外傾している。

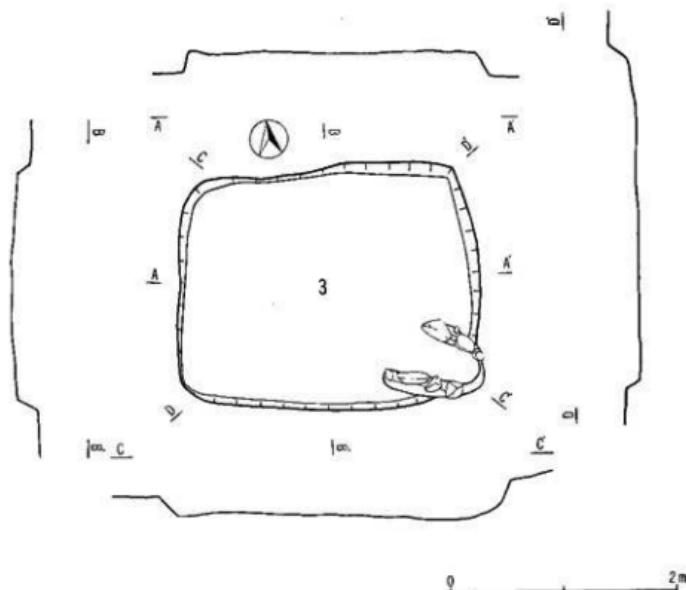
○床面 床面は固く踏み固められていた。

○カマド カマドは住居址の南東部に作られ、粘土と河原石で作られ残存状態は良好であった。焼口40cm、奥行70cm(第13図)

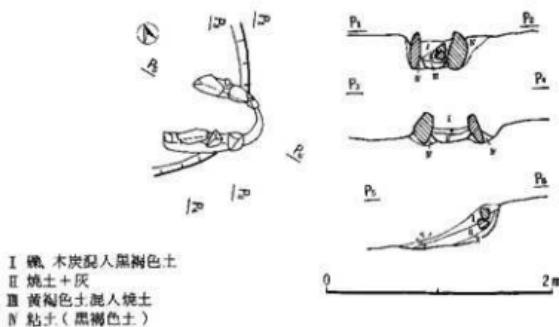
○遺物の出土状況 土器は西壁の近くに甕が1個体押しつぶされたような状態で出土し、その他はカマド内とその附近から出土している。本住居からの出土遺物は少なかつたが、綠釉陶器片が出土している。(第14図)

出土遺物（第15図）

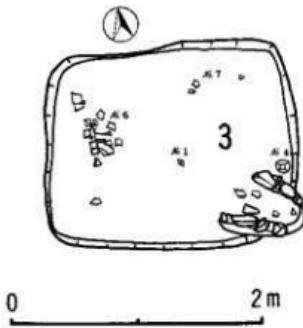
1は緑釉陶器の杯と考えられる。内外面ともに釉が施されている。2、3は杯であるが、3は粗雑である。4は浅鉢の底部と思われる。5は住居址西側の床面に押しつぶされたような状態で出土した甕であり、口縁部に貼り付けを有する。6、7は覆土より出土した須恵器の甕の口縁部である。8は床面より出土した土製甕の破片である。



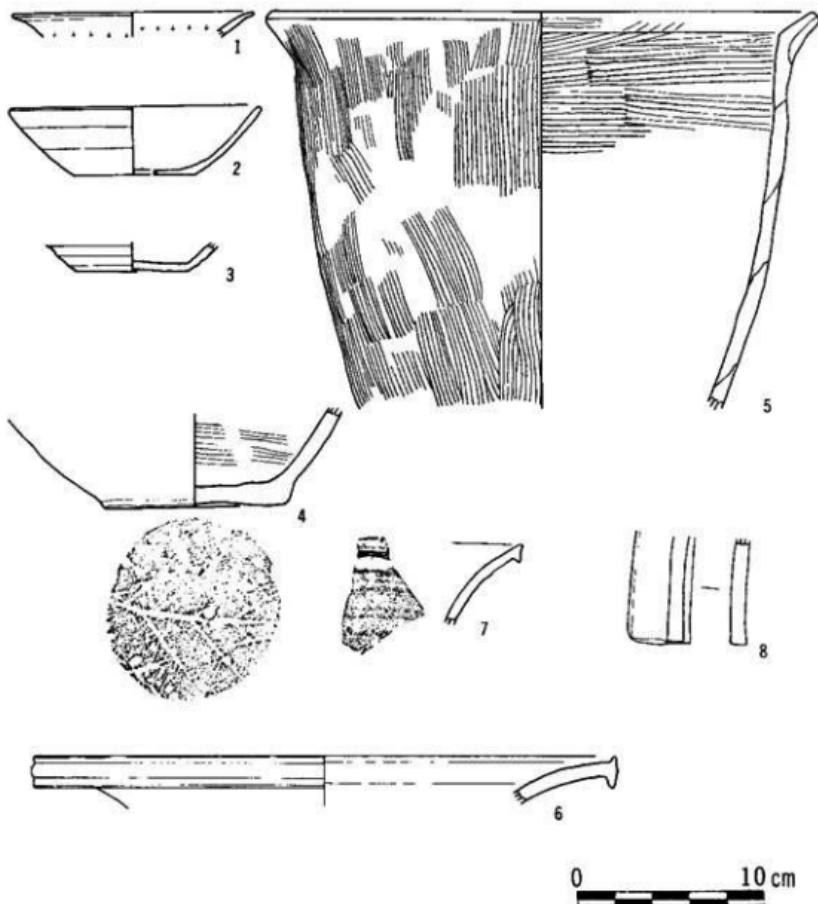
第12図 3号住居址



第13図 3号住居址カマド



第14図 2号住居址遺物出土図



第15圖 3号住居址出土遺物

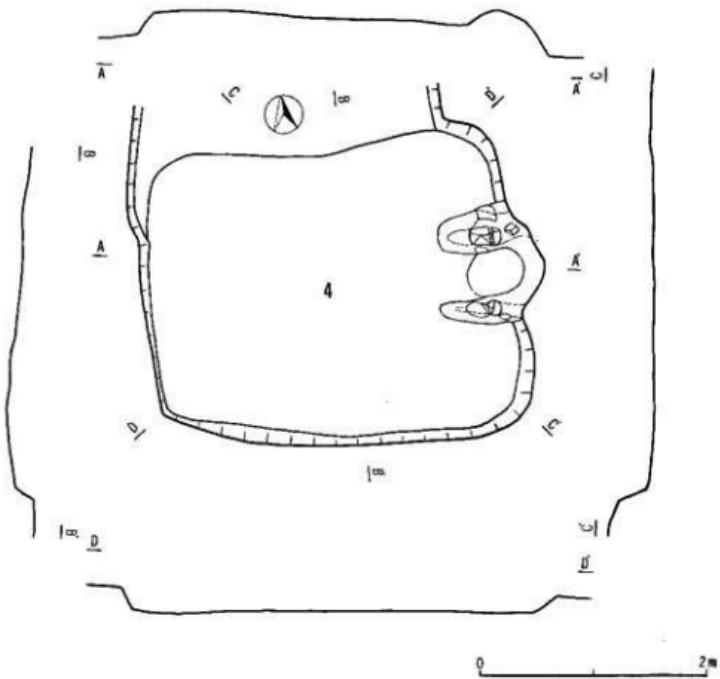
#### 4号住居址

本住居址は2号住居を切って作られている表土下東壁附近で約30cm、西壁附近で約31cmを計る。(第16図)

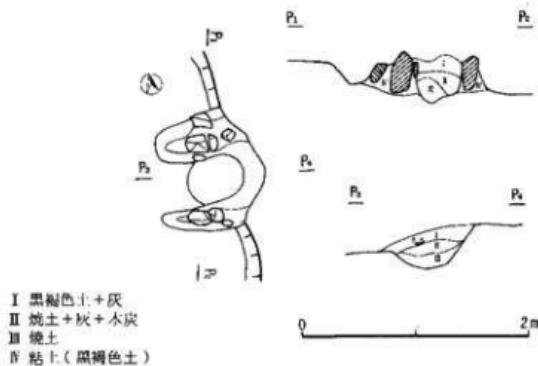
- プラン　隅丸長方形を呈すると思われる。住居の北側を3号住居に切られている。
- 主軸　N-5°-E
- 柱穴　なし
- 周溝　なし
- 壁　壁は東壁で高さ約30cm、南壁で約20cm、西壁は20cmを計る。壁は外傾する。
- 床面　床面は北側が固く、南側はやや軟弱であった。
- カマド　カマドは粘土を河原石で作られており、焚口50cm、奥行80cmで、カマド内の深さは最高で約20cm掘り込まれていた。(第17図)
- 遺物の出土状況　遺物は床面全体に散布しているが、カマド周辺がとくに多かった。(第18図)
- その他　床面中央南よりに扁平状の石が置かれており、その石はやや高さが一定でないためその聚い部分に石をはきみ込んで高さを一定にしていた、物を置く台状のものと思われる(石の大きさ、長径30cm、短径20cm、高さ約6cm)またカマド右側には扁平の直径15cm大の石が並べられていた。

#### 出土遺物(第19図)

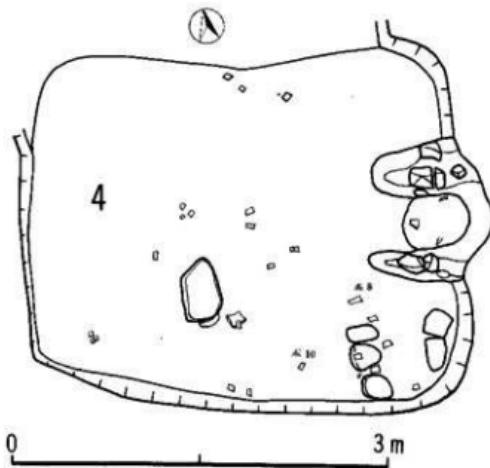
- 1は土師器の皿である。口縁部は外反し、玉縁状を呈している。
- 2~10は土師器の杯である。5は口縁部がやや玉縁化している。また3、4のようにそうでないものもある。6、7は内面は黒色で口縁部が玉縁化している。8~10は底部の資料であるが9はヘラ切痕を有する。8、10は糸切後ヘラで整形されているとともに10には器面外面胴下部にヘラ削りが認められる。
- 11~14は土師器の甕である。11~13は口径約15cm前後であり、12、13は胴部がやや張るようである。14は口径14cmの大型の甕で口縁部に粘土の貼付けが認められる。
- このほか須恵器の甕の破片が3個体分ほど出土した。



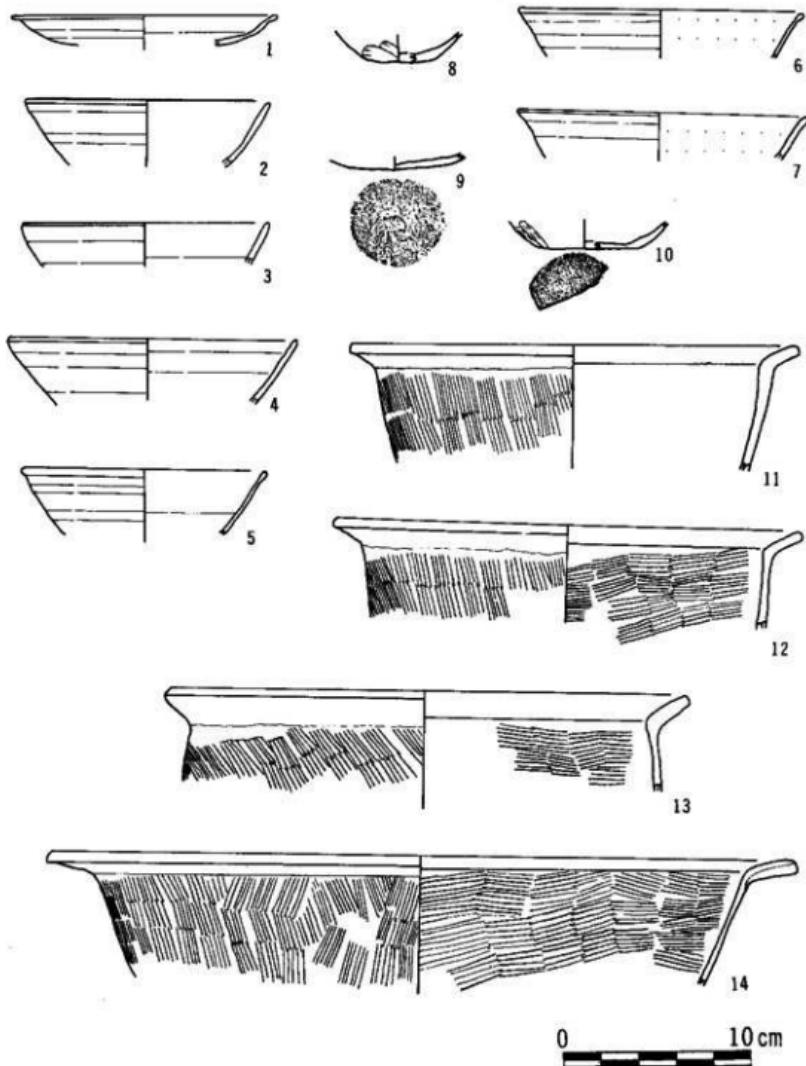
第16図 4号住居址



第17図 4号住居址 カマド



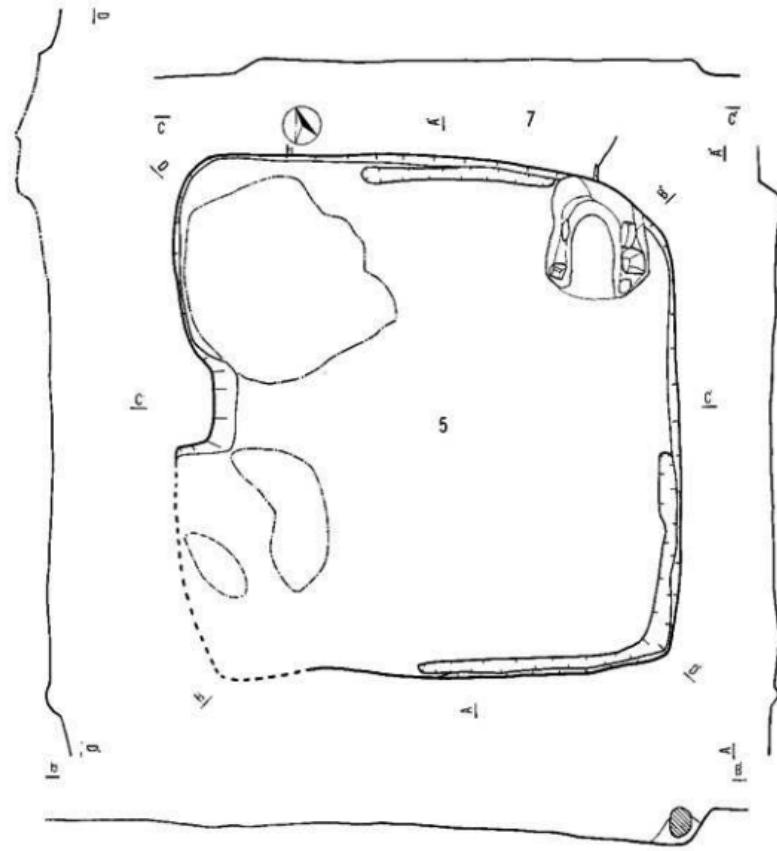
第18図 4号住居址 遺物出土図



第19図 4号住居出土遺物

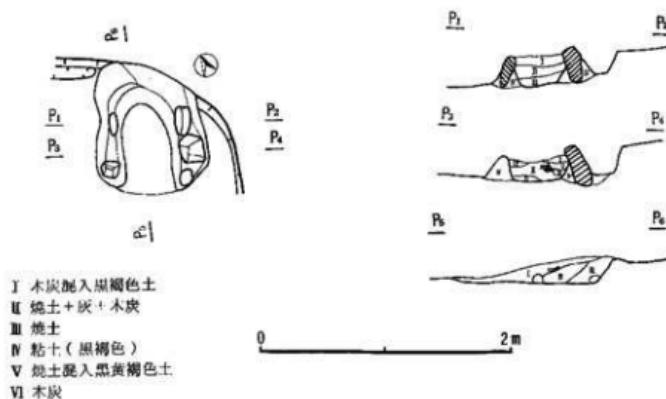
### 5号住居址

本住居址は表土下、東壁附近で約47cm、西壁面で約38cmを計る。7号住居を切って造られて  
いる。(第20図)

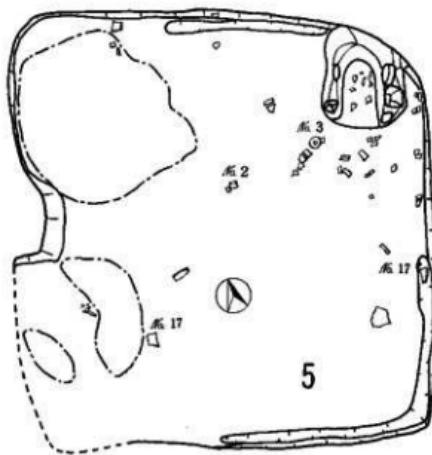


第20図 5号住居址

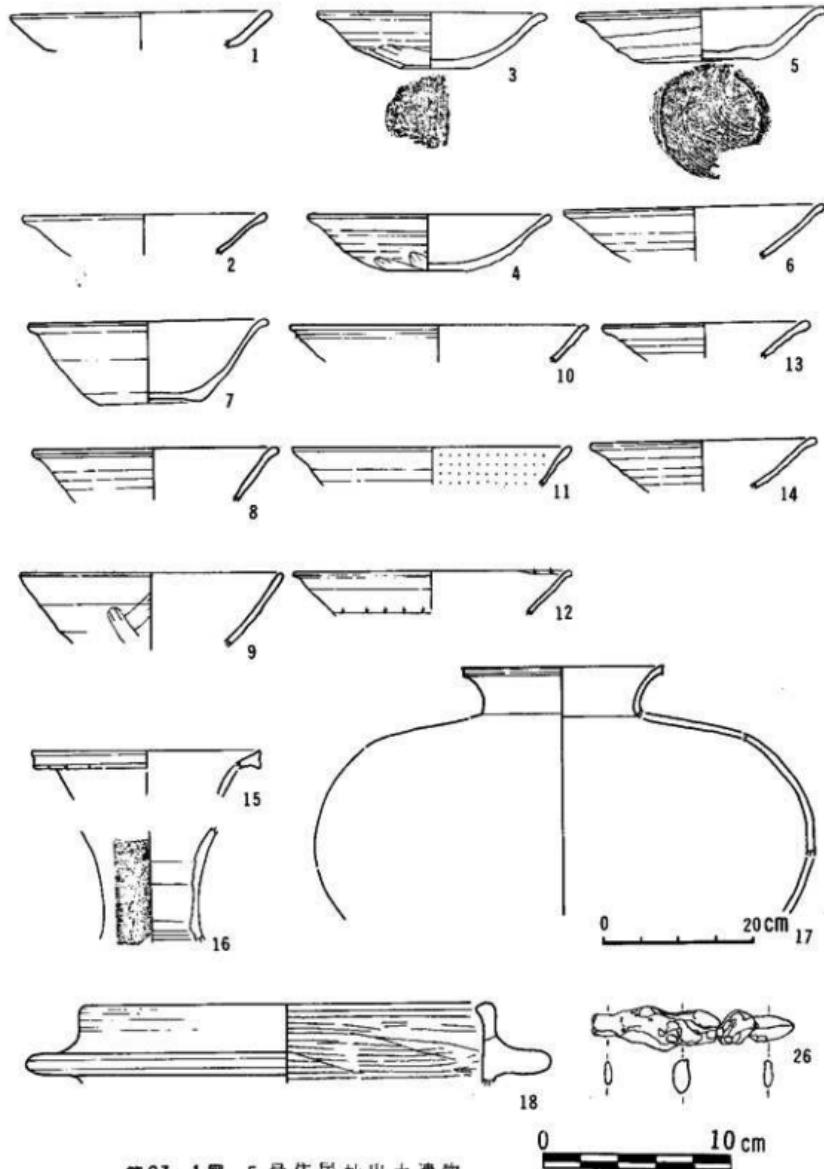
- プラン 隅丸方形を示すものと思われる東壁約3.7m、北壁4.0mを計る。葡萄の栽培施肥による深耕（擾乱）が住居址内三ヶ所に及んでいる。住居西壁中央に長さ約80cm、幅約30cm、高さ15cmを計る住居内への張出部が認められる。
- 主 軸 N-20°-E
- 柱 穴 な し
- 周 溝 東壁南側から南壁東側及び北壁中央部にかけて検出でき、幅10cm~18cm、深さ約6cmを計る。
- 壁 壁はやや外傾し、東壁カマド近くで高さ30cm、南東隅壁で15cm、北西隅壁で12cmを計る。住居の南西部は擾乱のため確認できなかった。
- 床 面 床面は固く踏み固められていた。住居の北西部及び南西部の床面は擾乱されていた。
- カマド 北壁東よりに位置し、粘土で河原石を芯に造られていた。カマド内に焼土は特に多く、カマド附近に木炭とともに多く散乱していた。焚口で40cm、奥行80cmを計る。  
(第21図)
- 遺物の出土状況 土器の出土はカマド周囲が特に多い。完形土器はカマド附近から、また床面南西部からは刀子が出土している。(第22図)
- その他 本住居址は他の住居よりは規模も大きく、出土遺物も多かった。
- 出土遺物** (第23-1、23-2図)
- 1~6は土師器の皿である。1は口縁部は外反せず、また胴部も屈曲せず底部に移行するようである。2~6はそれとは対象的に口縁部は外反しており、胴部はロクロ横ナデの腹を顯著に残す。3、4は器面外面の胴下部から底部にかけてヘラ削りされ、底部が縮小されている。ヘラ削りは糸切後に行なわれたものである。5はヘラ削りはされずに糸切がそのまま残されており、従って底部径も大きい。7~14は杯である。皿と同様口縁部が玉縁状になっているが、9のようにそうでないものがある。また9は器面外面の胴下部にヘラ削りが認められる。10は須恵器で、11は内面黒色土器である。12は灰釉陶器で器面外面に釉が塗られている。15は長頸壺の口縁部で灰釉陶土器である。16は長頸壺の頸部であり、須恵器である。17は羽釜である。口径は推定で22.0cmを計る。19.20は浅鉢であるが、口縁部に粘土の貼付を有する。21~25は甕である。21~23は口縁部浅鉢同様に粘土の貼付けを有する。24、25は甕の底部であるが、いづれも木ノ葉紋を有する。26は住居址西側から出土した刀子であるが原形は不明である。



第21図 5号住居址 カマド



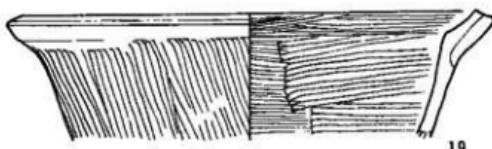
第22図 5号住居址 遺物出土図



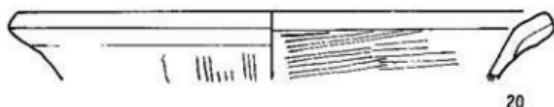
第23-1圖 5号住居址出土遺物



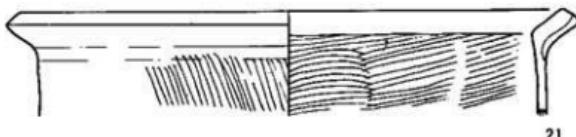
24



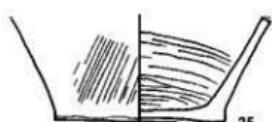
19



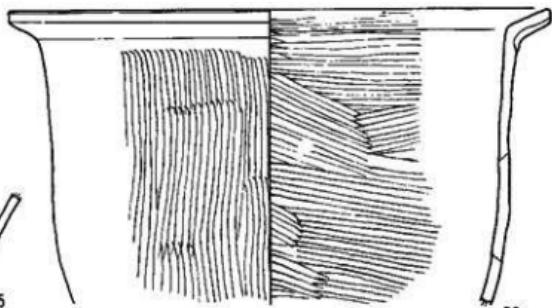
20



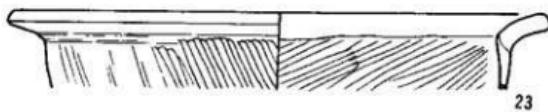
21



25



22



23



第23—2図 5号住居出土遺物

### 6号住居址

本住居址は表土下東壁附近で45cm、西壁附近で39cmでプランが確認された。住居は路線外へかかっているため3分の1ほどしか調査することができなかった。(第24図)

○プラン 隅丸方形を呈するものと推定できる。

○主 軸 N-10°-E

○柱 穴 ——

○周 溝 ——

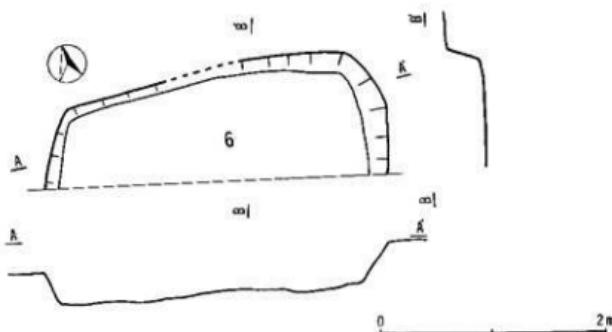
○ 壁 壁は外傾し、東壁は高さ約42cm、西壁では高さ約39cmである。北壁の中央部は葡萄栽培の施肥のための攪乱を受けている。

○床 面 床面は中央部では固くバリバリであったが、北東隅ではやや軟弱であった。

○カマド 現調査段階では不明であるが、床面北東隅に焼土が堆積していた。

○遺物の出土状況 住居址の推定3分の1程度の調査であったが、遺物は比較的多かった。

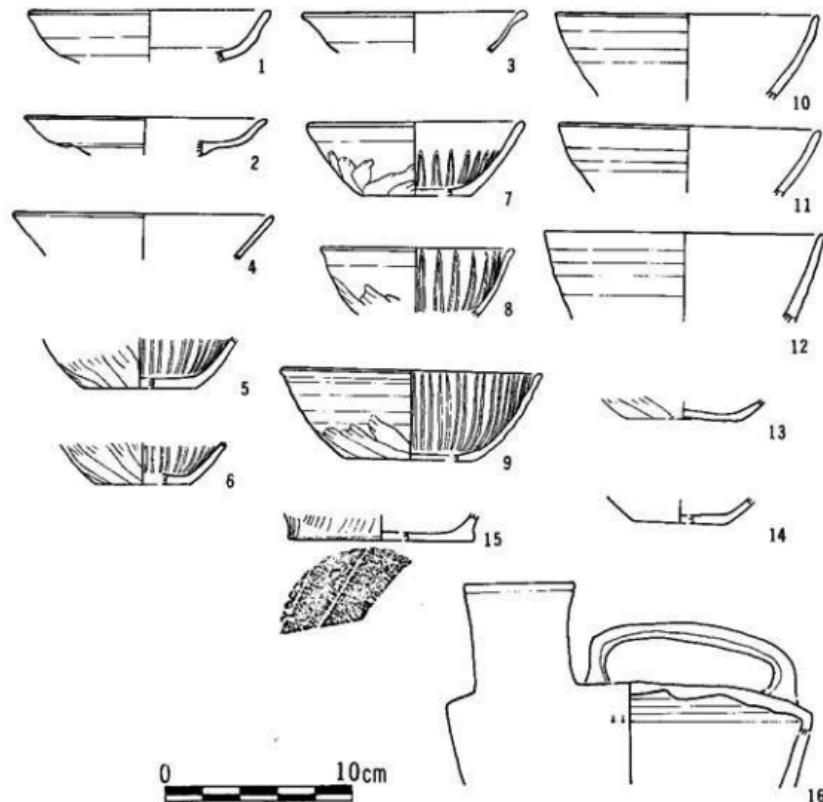
また住居址北東部に集中していた。



第24図 6号住居址

出土遺物（第25図）

1～4は土師器の皿である。2は底部に高台が付いている。3は口縁部が玉縁化しており、他からの搬入かもしれない。4～14までは土師器の杯であるが、5～9は胴部外面にヘラ削りを有し、胴部内面から底部にはヘラによる花弁状の暗文が施されている。底部は糸切後にヘラ削りがされている。そのうちで8、9のように口縁部がやや外反ぎみのものである。15は小形の甕の底部であるが器肉が薄い。16は平瓶の破片であり、器面に釉が施されている。

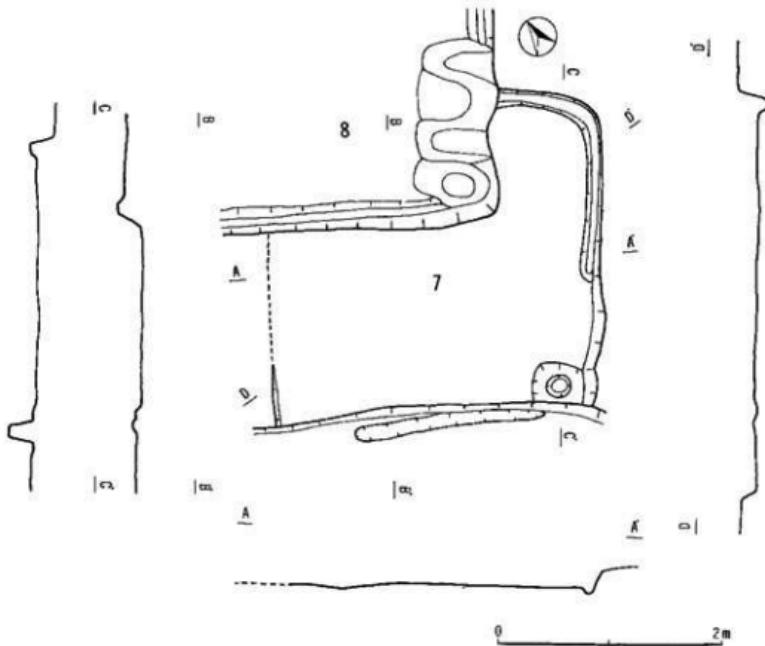


第25図 6号住居址出土遺物

## 7号住居址

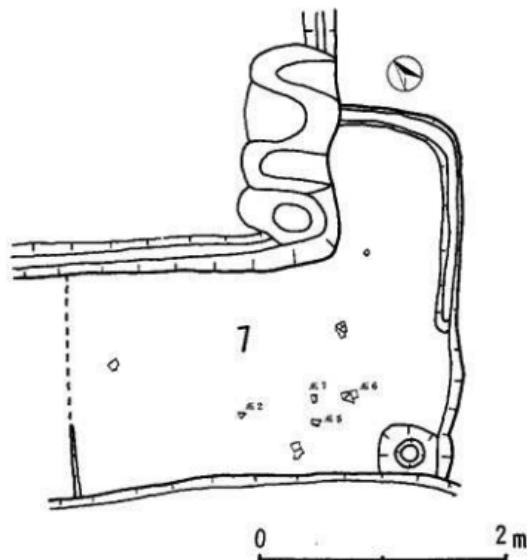
本住居址は南部を5号住居址に、北部を8号住居址によって切られている。(第26図)

- プラン 隅丸方形を呈するものと推定される。
- 主軸 カマドは壊されていたが、東壁中央南よりピットの北側に河原石及び焼土が出土しており、ここにあったものと思われN-36°-E。
- 柱穴 なし(東壁隅にピットがあるが、柱穴ではないものと思われる。)
- 周溝 住居の東壁から北壁にかけて残存する。幅18cm~14cm、深さ10cm~81cmを計る。
- 壁 壁はやや外傾する。西壁は南側(5号住居より)に残されており、それ以北は擾乱により不明であった。
- 床面 床面は固く踏み固められていた。



第26図 7号住居址

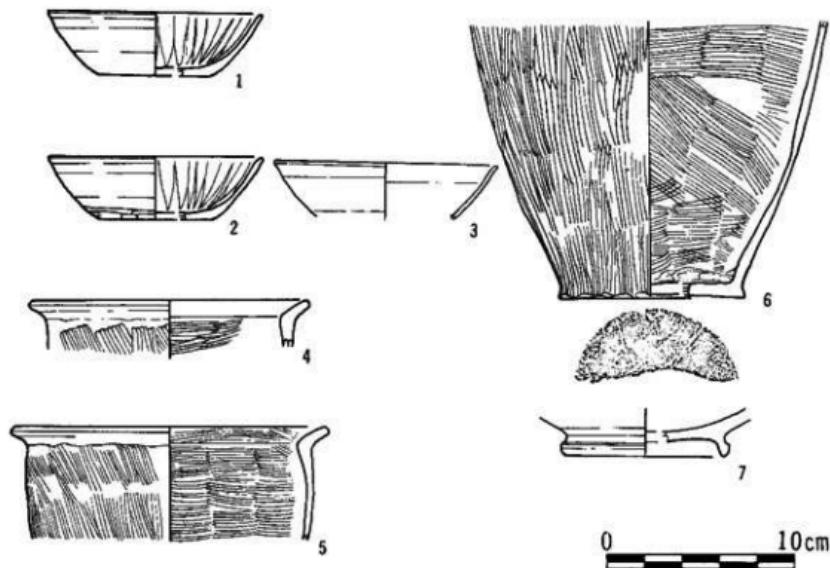
- カマド 塗されているが東壁中央やや南よりにあったものと思われ、焼土及び河原石が出上した。
- 遺物の出土状況 遺物は住居址の東半分に多く出土した。(第27図)
- その他 東壁南隅にピット状の遺構が検出できたが、用途は不明である。直径18cm、深さ20cmを計る。



第27図 7号住居址遺物出土図

出土遺物（第28図）

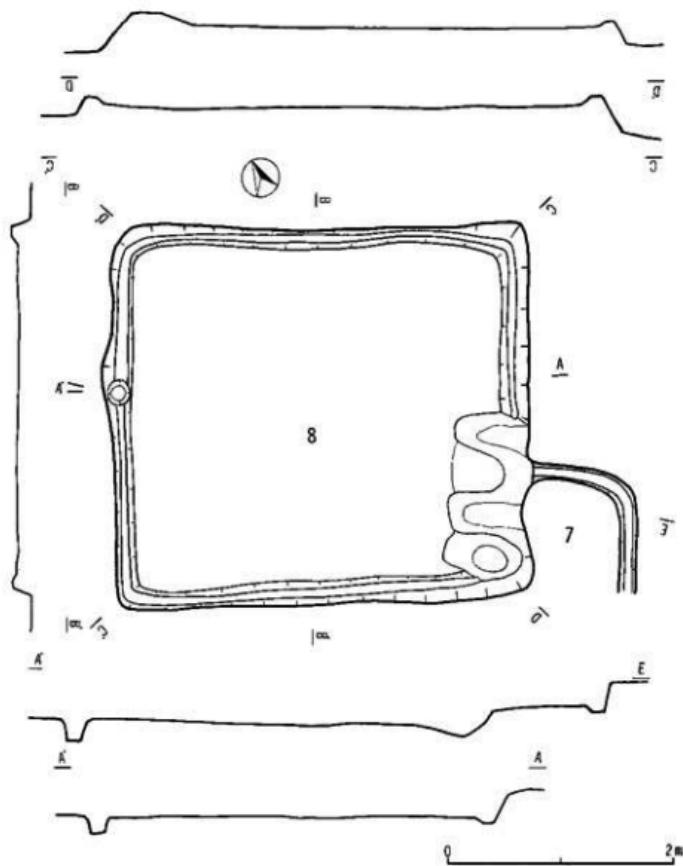
1～3は土師器の杯である。1、2は内面にヘラ状工具による暗文を有し、2は外画底部にヘラ削りを有する。3は口縁部がやや外反している。4～6は土師器の甕であるが4はやや小型である。三個体とも整形に用いた刷毛は外面と内面では違うものを使用している。7は須恵器の高台付皿と思われるが、口縁部を欠損している。高台はロクロ回転によりヘラで削出しを行っている。



第28図 7号住居址出土遺物

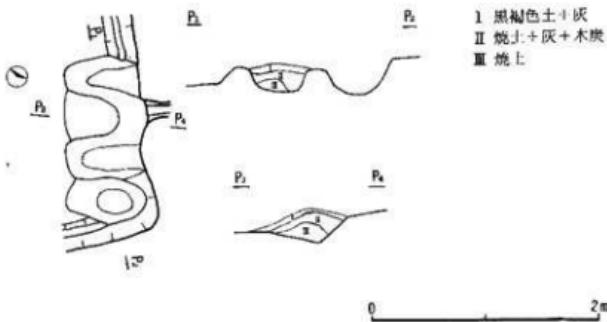
### 8号住居址

本住居址は表土下東壁附近で約34cm、西壁附近では約69cmで落ち込みが確認できた。(第29図)

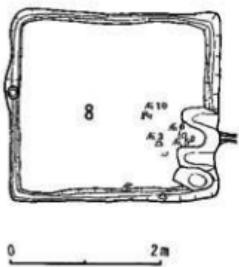


第29図 8号住居址

- プラン 方形
- 主 軸 N - 28° - E
- 柱 穴 なし 西壁中央やや北よりにピット状のものが検出できたが、用途ははっきりしない。直径20cm、深さ20cmを計る。
- 周 溝 全周に、幅14cm~20cm、深さ約8cmである。
- 壁 壁は外傾する。高土は東壁約27cm、南壁の東部で22cm、北壁の東部17cmで西壁に近くなるほどに差がなくなり、西壁では床面との差がほとんどない。
- 床 面 床面は固く踏み固められている。中央部がやや凹んでいる。
- カマド 東壁やや中央よりに位置し、構築は、住居址の掘り込みとき地山である茶褐色土層をそのまま、カマドの形に構築している。焚口で約50cm、奥行55cmを計る。(第30図)
- 造物の出土状況 カマド周辺に多く散布していた。(第31図)
- その他 カマド南には堀込みが検出できた。



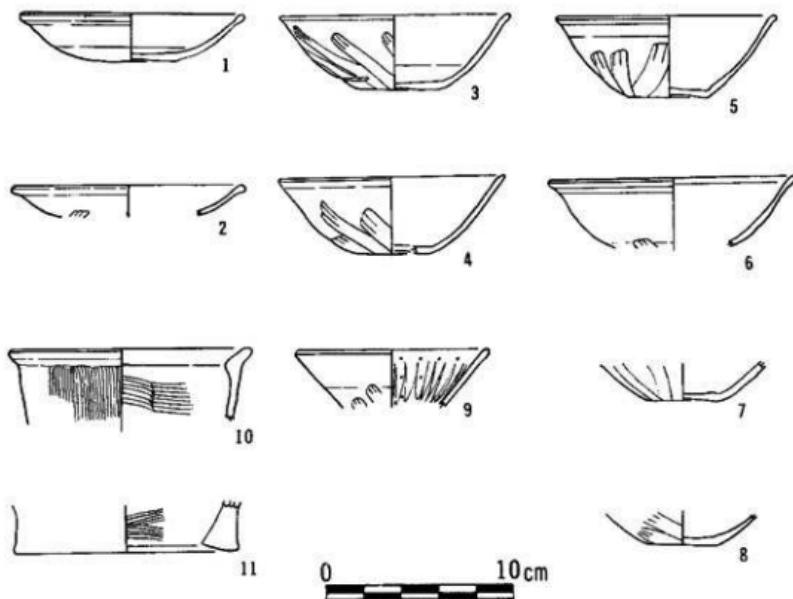
第30図 8号住居址 カマド



第31図 8号住居址遺物出土図

出土遺物（第32図）

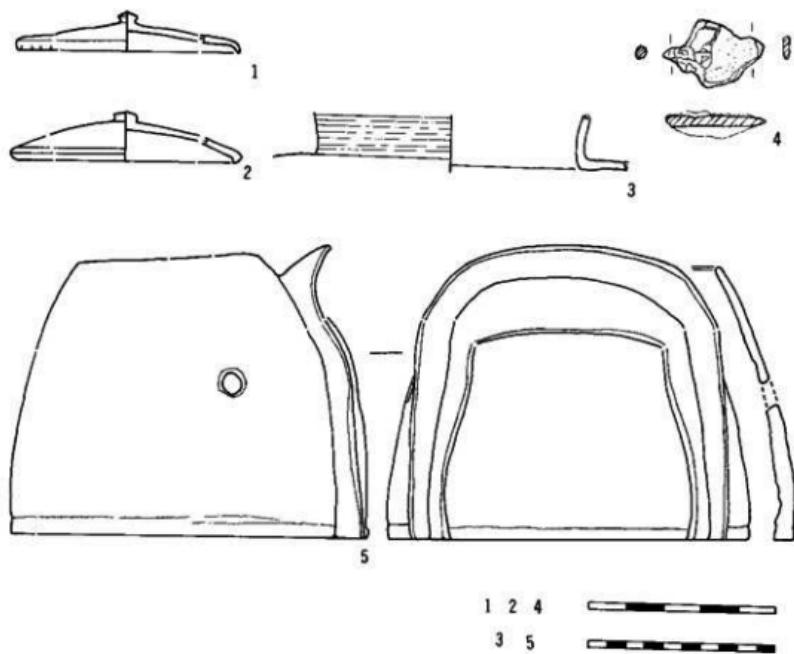
1、2は土師器の皿である。口縁部は外反し、玉縁状である。3～9は土師器の杯であるが、全体に胴部外面にヘラ削りが施されている。口縁部は外反し、やや玉縁化している。9は口縁部は外傾しており、内面は内黒である。杯の底部は糸切後、ヘラで削り整形しているが、4はヘラ切である。10は口縁の直径13cm程度の小型甌である。内外面ともに同じ刷毛を用いているようである。11は瓶の資料である。



第32図 8号住居址出土遺物

トレンチ出土遺物（第33図）

豎穴住居址から出土した遺物のほか、トレンチ内から出土したおもなものをあげておくと、1、2は蓋で、1は灰釉陶器、2は須恵器である（ともに8号トレンチ内出土）3は須恵器の大甕の資料である（3号トレンチ内出土）4は土製甕で、側面に1孔のみ有するようである。（8号トレンチ内出土）5は鉄族の資料である。



第33図 トレンチ出土遺物

豊穴住居址一覧表

住居番号	時期	主軸の方向 住居址の形	規模(㎡)	竪の位置	竪の作り	備考
1号住居址	固分	N-16°-E 隅丸方形(不整形)	2.9×3.0	東壁のやや南より	粘土及び河原石	
2	*	N-3°-W 隅丸方形	推計2.8×3.0	北壁の西より?	不明	周溝一部めぐる
3	*	N-6°-E 隅丸長方形	2.65×2.0	南北壁隅	粘土及び河原石	
4	*	N-5°-E 隅丸長方形	3.3×推計3.0	東壁の中央	*	
5	*	N-20°-E 隅方丸形 丸	4.4×4.6	北壁の東より	*	
6	*	N-10°-E 隅丸方形 ?	3.0×?	?		
7	*	N-36°-E 方 形 ?	2.8×推計3.0	東壁のやや東より?	全 塵	周溝一部めぐる
8	*	N-28°-E 方 形	3.7×3.4	東壁のやや東より	地山をそのまま残す	周溝全周

住居址内出土遺物器種及び個体数分類表(推計)

住居址	住居の状況	上 部 器					須恵器	灰陶陶器	その他	計
		皿	杯	甕	その他	不明				
1号住居址		5	8	8			不明 1	1		23
2	*	4号住居に切られている	11	2			甕 1			14
3	*		3	4	土製甕 1		甕 4		鉢 1	13
4	*	3号住居により 切られている	2	17	8		甕 2			29
5	*		7	21 うち高 台付 2	15 羽 釜 2	4	甕 1 甕 3	壺 1 杯 1	刀 1	56
6	*	半掘	2	10	2		甕 4	平瓶 1		19
7	*	5、8号住居に 切られている		5	3		甕 1	高台付 1		10
8	*		2	9	2	甕 1	甕 2			16

遺物一覧表 1

回収番号	出土地点	出土状況	種類	器形	法 cm			整 形			
					口径	器高	底径	口	縁	側面内	側面外
8-1	1号住居	床面	土師器	皿	13.0			外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
2	*	*	*	*	13.0			やや外反 やや玉縁	*	*	
3	*	*	*	*	14.0			外反やや玉縁	*	ロクロ横ナデ ヘラ削	
4	*	*	*	*	12.8	2.6	5.0	外反、玉縁	*	*	
5	*	*	*	*	13.0			*	*	*	*
6	*	*		杯	12.0			*	*	*	*
7	*	*	*	*	12.0			尖る	*	*	
8	*	*	*	浅鉢	24.0			横ナデ	刷毛棒	刷毛縦	
9	*	*	*	甌	28.0			横ナデ、貼付け	*	*	
10	*	*	*	*			7.8		*	*	
11	*	*	*	*			10.0		*	*	
11-1	2号住居	床面	土師器	皿	11.0	2.2	7.0	尖形、横ナデ	ロクロ横ナデ ヘラ磨	ロクロ横ナデ ヘラ磨	
2	*	*	*	杯				*	*	*	
3	*	*	*	*			9.0		*	*	
4	*	*	*	*	13.0			尖形、横ナデ	*	*	
5	*	*	*	*			6.0		*	*	
6	*	*	*	*			6.0		*	ロクロ横ナデ ヘラ削	
7	*	覆土	*	*			4.4				
8	*	*	*	*			5.4		ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ ヘラ磨	
9	*	*	*	*			6.0		*	ロクロ横ナデ	
15-1	3号住居	床面	縁附器	杯	13.0			外反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
2	*	*	土師器	*	13.8			外傾	*	*	
3	*	*	*	*			6.0		ロクロ水びき	*	
4	*	カマツ、片	*	浅鉢			9.7				
5	*	床面	*	甌	29.5			横ナデ	刷毛横削	刷毛タテ削	
6	*	*	須恵器	*				*			
7	*	*	*	*				*			
8	*	フク土	土師器	土製カマツ							
19-1	4号住居	床面	土師器	皿	14.0			外反、玉縁	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
2	*	*	*	杯	12.8			外傾	*	*	
3	*	*	*	*	13.0			*	*	*	

方 法		粘 土	燒 成	色 調		備 考
底部(内)	底部(外)			内	外	
	こまかい		良 好	黄褐色	黄褐色	
		*	*	*	*	
ロクロ横ナデ	糸切、ヘラ削	*	*	*	*	
ロクロ横ナデ	*	*	*	暗褐色	暗褐色	
		*	*	黄褐色	黄褐色	
		*	*	*	*	
		砂粒を含む	*	暗茶褐色	茶褐色	
			*	茶褐色	暗褐色	
横ナデ	木ノ葉	*	*	黑褐色	黑褐色	
		*	*	茶褐色	*	
ロクロ横ナデ	ヘラ磨	こまかい	良 好	茶褐色	茶褐色	
		*	*	黄褐色	黄褐色	
ロクロ横ナデ	ヘラ裏	*	*	*	*	
*	ヘラ削	*	*	*	*	
*	*	*	*	*	*	
*	*	*	*	茶褐色	茶褐色	
*	*	*	*	黄褐色	黄褐色	
*	ヘラ削、セン孔	*	*	*	*	
*	ヘラ磨	*	*	*	暗茶褐色	
ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	こまかくち密	*	濃い紺色濃い紺色		
*	糸切	スコリヤ混入こまかい	*	黄褐色	黄褐色	
木葉	こまかく、小さい砂 粒を多く含む	*	茶褐色	*		
	砂粒を含む	*	黑褐色	黑褐色		
		*	*	*	*	
		赤みのかかった灰色	*	灰青色	暗・灰色	
	灰青色	*		灰青色(日 光下)	*	
	砂粒を多く含む			茶褐色	茶褐色	
	こまかい	良 好		茶褐色	茶褐色	
		*	*	*	*	
		*		黄褐色	黄褐色	

遺物一覧表2

通鑑番号	出土地点	出土状況	種類	器形	法 量cm			形 態		
					口径	器高	底径	口 縁	胴部内	胴部外
19-4	4号住居	床面	土師器	直	15.4			外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
5	x	x	x	x	13.0			やや外反、玉縁	x	x
6	x	x	x	x			5.4	やや外反	x(内黒)	x
7	x	x	x	x			15.4	x	x(x)	x
8	x	x	x	x			3.3		ロクロ横ナデ	x
9	x	x	x	x			5.0		x	x
10	x	x	x	x			5.4		x	ロクロ横ナデ ヘラ削
11	x	x	x	甌	23.6			ヨコナデ	刷毛横	刷毛甌
12	x	x	x	x	24.8			x	x	x
13	x	x	x	x	28.0			x	x	x
14	x	x	x	x	40.0			x(粘付け)	x	x
23-1	5号生居	床面	土師器	直	14.0			外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ
2	x	x	x	x	13.0			外反	x	x
3	x	x	x	x	12.3	3.0	3.8	外反、玉縁	x	ロクロ横ナデ ヘラ削
4	x	x	x	x	13.0	3.0	4.4	x	x	x
5	x	x	x	x	14.5	2.8	6.3	x	x	x
6	x	x	x	x	14.0			x	x	x
7	x	x	x	杯	12.8	4.4	5.7	x	x	ロクロ横ナデ ヘラ削
8	x	x	x	x	13.0			x	x	x
9	x	x	x	x	14.0			外傾	x	ロクロ横ナデ ヘラ削
10	x	x	須恵器	x	15.8			外反	x	ロクロ横ナデ
11	x	x	土師器	x	15.0			外反、やや玉縁	内黒	x
12	x	x	灰陶湯器	x	15.0			外反	ロクロ横ナデ	x
13	x	x	土師器	x	11.0			外反、丸縁	x	x
14	x	x	x	x	12.0			x	x	x
15	x	x	灰陶湯器	長無蓋	12.2			x		
16	x	x	x	x						
17	x	x	須恵器	甌	27.0			外反	タタキ目	タタキ目
18	x	x	土師器	羽茎	22.0			横ナデ	刷毛横	
19	x	x	x	浅鉢	25.8			x	x	刷毛縁
20	x	x	x	x	29.0			x	x	x
21	x	x	x	甌	30.5			x	x	x

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底 部(内)	底 部(外)			内	外	
	こまかい	良 好	茶褐色	茶褐色		
	*	*	黄褐色	*		
	*	*	黑 色	暗黄褐色		
	*	*	*	*		
ロクロ機ナデ	未切→ヘラ削	*	*	茶褐色	茶褐色	
*	ヘラ切	*	*	*	黄褐色	
*	糸 切	*	*	茶褐色	赤褐色	
	砂粒含む	ややもろい	黄褐色	暗黄褐色		
	*	*	*	*		
	*	*	*	*		
	*	*	*	*		
	こまかい砂粒を 若干含む	良 好	黄褐色	黄褐色		
	こまかい	*	赤褐色	赤褐色		
ロクロ機ナデ	糸切→ヘラ削	*	*	*	*	内側スス付着
*	*	*	*	*	暗褐色	
*	糸 切	*	*	黄褐色	黄褐色	
ロクロ機ナデ	糸 切	*	*	暗黄褐色	*	
*	*	*	*	*	*	
*	*	*	茶褐色	茶褐色		
*	*	*	灰白色	灰白色		
*	*	*	黑 色	黄褐色		
*	*	*	灰绿色	灰绿色		
*	*	*	茶褐色土	茶褐色土		
*	*	*	*	*		
*	*	*	灰绿色	灰白色		
*	*	*	灰青色	灰青色		
*	*	*	灰青色	灰青色		
	砂粒含む	*	茶褐色	茶褐色		
	*	*	暗褐色	暗褐色		
	*	*	*	茶褐色		
	*	*	*	暗褐色土		

遺物一覧表3

測面番号	出土地点	出土状況	種類	器形	法量cm			整形			
					口径	器高	底径	L	縁	肩部内	肩部外
23-22	5号住居	床面	土師器	甕	28.8			横ナデ	刷毛横	刷毛縦	
23	*	*	*	*	29.0			*	*	*	*
24	*	*	*	*		8.2		*	*	*	
25	*	*	*	*			9.1	*	*	*	
26	*	*	刀子	*							
25-1	6号住居	床面	土師器	皿	13.0			やや外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
2	*	*	*	皿(高台付)	13.0			*	*	*	
3	*	フク上	*	*	12.0			外反、玉縁	*	*	
4	*	*	*	杯	14.0		5.8	外傾	*	*	
5	*	床面	*	*		6.0		ロクロ横ナデ 昭文	ロクロ横ナデ 昭文		
6	*	*	*	*		5.0		*	*	*	
7	*	*	*	*	11.6	4.0	5.8	外傾	*	*	
8	*	*	*	*	10.4			やや外反	*	*	
9	*	*	*	*	14.0	4.8	7.0	*	*	*	
10	*	*	*	*	14.0			外傾	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
11	*	*	*	*	14.0			*	*	*	
12	*	*	*	*	15.0			*	*	*	
13	*	*	*	*		6.0		*	ロクロ横ナデ ヘラ削		
14	*	*	*	*		5.0					
15	*	*	*	甕		10.0					
16	*	床面や上	灰陶器	平瓶						灰縫釉	
28-1	7号住居	床面	土師器	杯	11.2	3.4	6.0	外傾	ロクロ横ナデ 昭文	ロクロ横ナデ	
2	*	*	*	*	11.4	3.5	6.0	*	*	*	ロクロ横ナデ ヘラ削
3	*	*	*	*	12.0			やや外反	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
4	*	*	*	*	15.0			ヨコナデ	粗い刷毛横	粗い刷毛縦	
5	*	*	*	*	17.0			*	細い刷毛横	細い刷毛縦	
6	*	*	*	*		10.0		*	刷毛横	刷毛縦	
7	*	*	須志器	高台付皿		8.5			横ナデ	横ナデ	
32-1	8号住居	床面	土師器	皿	12.0	2.6	4.4	外反、玉縁	ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	
2	*	*	*	*	12.5			*	*	*	
3	*	*	*	杯	12.2	4.0	4.5	やや外反	*	ロクロ横ナデ ヘラ削	
4	*	*	*	*	12.0	4.1	3.8	*	*	*	

方 法		胎 土	焼 成	色 調		備 考
底部(内)	底部(外)			内	外	
		砂粒含む	良 好	茶褐色	茶褐色	
		*	*	暗褐色	暗褐色	
刷毛 模	木 / 繊	*	*	暗黄褐色	暗黄褐色	
*	*	*	*	黑色	*	
						長さ 10.3cm
ロクロ横ナデ	ロクロ横ナデ	こまかい	良 好	茶褐色	茶褐色	
*	*	*	*	*	*	
ロクロ横ナデ	削出高台	*	*	黄褐色	黄褐色	
		*	*	*	*	
ロクロ横ナデ 暗 文	糸切→ヘラ削	*	*	茶褐色	茶褐色	
*	*	*	*	黄褐色	黄褐色	
*	*	こまかく、小さい砂粒を含む	*	*	*	
*	*	*	*	*	*	
*	*	*	*	*	*	
*	*	糸切→ヘラ削	*	暗黄褐色	暗茶褐色	
ロクロ横ナデ		こまかい	*	黄褐色	黄褐色	
		*	*	*	*	
		*	*	*	*	
ロクロ横ナデ	糸切→ヘラ削	*	*	*	*	
*	*	*	*	*	*	
模ナデ	木 / 繊	砂粒を多く含む	やや悪い	茶褐色	暗茶褐色	
		こまかい	良 好	灰褐色	灰綠色	
ロクロ横ナデ 暗 文	糸切→ヘラ削	こまかい	良 好	黄褐色	黄褐色	
*	*	*	*	*	*	
		*	*	*	*	
		砂粒含む	*	*	*	
		*	*	黒褐色	黒褐色	
模ナデ	木 / 繊	*	*	茶褐色土	暗褐色土	
*	高台(円)	こまかい	*	灰綠色	灰綠色	
ロクロ横ナデ	糸 切	こまかい	良 好	黄褐色	黄褐色	
*	*	*	*	*	赤褐色	
ロクロ横ナデ	糸切→ヘラ削	*	*	赤褐色	*	内面スス付着
*	*	*	*	*	*	

### 遺物一覽表 4



## 結語

大切（だいぎり）遺跡の調査の結果、8軒の竪穴住居が検出された。竪穴住居址は西斜面の海抜415メートル付近に集中している。地表面における遺物の分布状況からして集落は今回の大切遺跡からさらにその南方に広がるものと思われる。発見された竪穴住居址の時期は、開東編年でいわれている真間期（1軒）、国分期（7軒）に比定される。

真間期の竪穴住居址（2号住居）は西側を2軒の国分期の竪穴住居址によって切られており、カマドも残存していなかったが焼土の状況からして北壁や西よりにあったものと思われる。出土遺物は土師器と須恵器が主であったが、その量は窮めて少量であった。この時期の土器については、本県では菊島氏<sup>(112)</sup>が研究を進められており、その方に譲るとして、竪穴住居址について、これまで県内で調査された山梨県東八代郡一宮町地内で2箇所4軒があり、今回の大切遺跡の竪穴住居址を併せてまとめてみると次のようになる。

1. 住居址はいづれも方形を呈し、竪穴を地表下深く掘込み、したがって礫が高くなっている。
2. 柱穴ではなく、周溝をもつものもある。
3. カマドは東壁及び北壁にあり、石組をもつものもある。

以上であるが、最近になり県内各地で、この時期の遺物は次第に確認されてはいるが、遺構はまだ発見例が少なく今後の類例を待つ次第である。

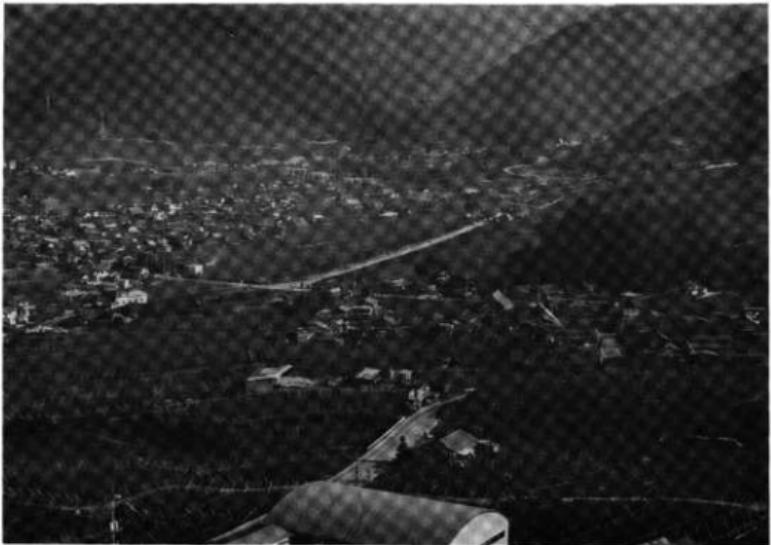
国分期の竪穴住居址（1号、3号～8号住居）は7軒が発見されたが、道路で切断されている部分を除んで大きく2ヶ所に集中し、1号・6号住居を除き重複していた。竪穴住居の形態は方形、隅丸方形、隅丸長方形のものがあり、規模は5号住居址を除いては、1辺が3m前後であった。5号住居は規模も他の住居址よりも一段と大きく、出土遺物も多かった。また西壁中央部に住居内に突出部が認められ用途は不明であるが、住居内への出入口とも想定されるところである。出土遺物は土師器が圧倒的に多く全体の70%を占め、須恵器は窮めて少なく完形で出土することは希であった。この時期の土器の編年分類については、既に菊島氏<sup>(113)</sup>、並びに米木氏により試みられているところであるが、出土遺物及び住居址の切合いからすると、大切遺跡の国分期の住居は3期に分けられ、第1期は4号・7号住居、第2期は6号住居、第3期は3号、5号、8号住居となる。カマドは東壁を中心に作られており、1号、3号、5号住居のカマドは河原石を芯にして作られているが、8号住居は竪穴住居の構築時にカマドの形を残して竪穴を掘り込んでおり、したがって礫の混入した固い茶褐色土から垢が成っている。また8号トレンチから出土した土器甕は竪穴住居址内からの出土ではなく、住居址群がある場所より一段低い離れた場所から廃棄された状態で出土したものである。側面の円孔は左側にのみ付されているようであり、前のつばはあまり大きく張らないようである。これまでの県内の出土例としては、東八代郡一宮町末本地内、同郡八代町地内米倉遺跡、山梨市七日子遺跡、八日市場遺跡がある。なお墨苦土器については、遺物整理の際細心の注意を払ったが出土していなかった。

- 註 (1) 菊島美夫 「山梨県に於ける晩期土師式土器編年試案」甲斐考古12の2 1976
- (2) 菊島美夫 「晩期周辺の土師器資料(1)」甲斐考古13の2 1976.11.
- (3) 山梨県教育委員会「勝沼バイパス道路建設に伴う古代甲斐国の考古学調査、東八代郡一宮町坪井～東原における埋没条里遺構半折形と聚落址」S49. 3.
- (4) 山梨県教育委員会「勝沼バイパス道路建設に伴う古代甲斐国の考古学調査（続編）
- (5) (1)と同じ
- (6) 山梨県教育委員会「山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書」北巨摩郡須玉町地内 1976. 3-
- (7) (4)と同じ
- (8) 上野晴朗 「甲州風土記」 S42. 12
- (9) 日下部上代聚落遺跡調査会「山梨県日下部上代聚落遺跡—出土品目録考—」1950. 11



# 図 版

図版 1



(1) 大切遺跡遠景

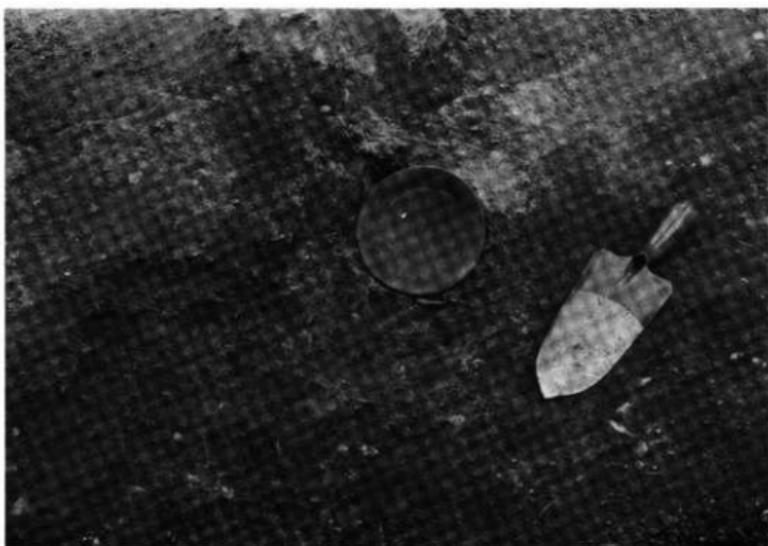


(2) 大切遺跡西側より

圖 版 2

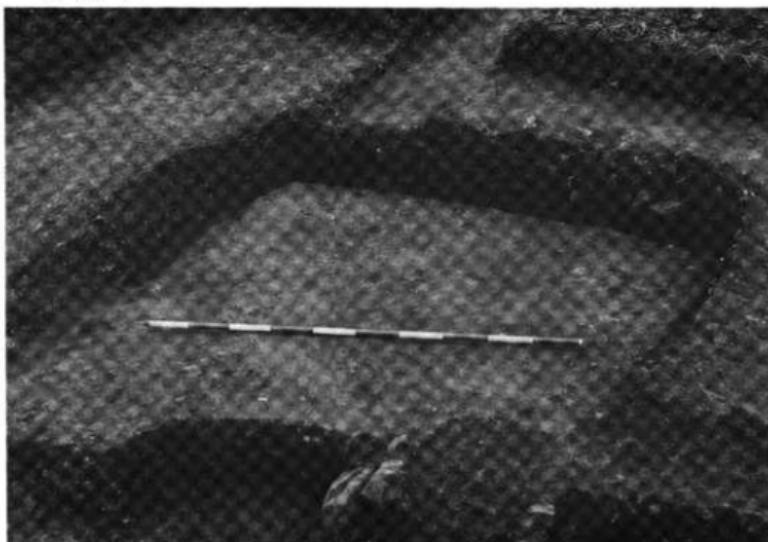


(1) 1 号 住 居 址

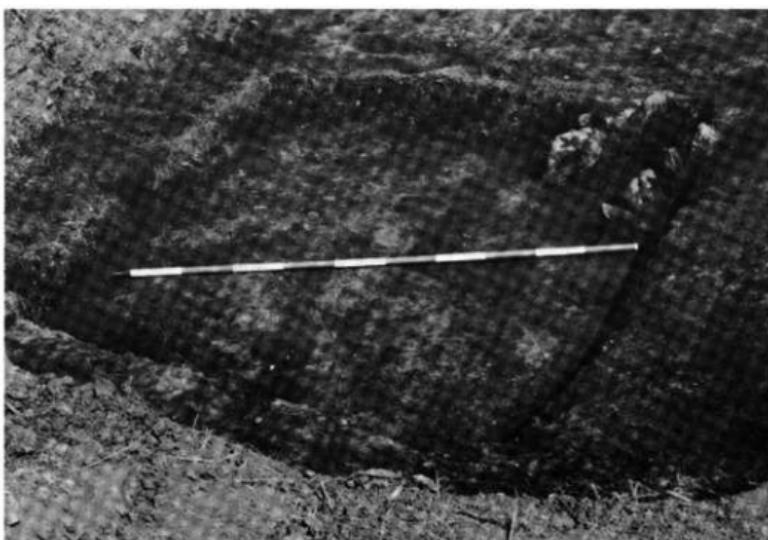


(2) 1 号 住 居 址 遺 物 出 土 状 況

図版 3



(1) 2 号 住 居 址

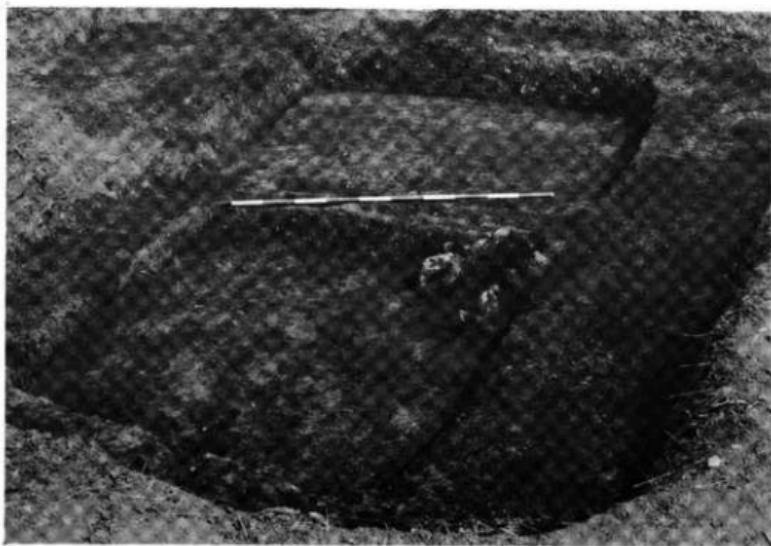


(2) 3 号 住 居 址

図版 4

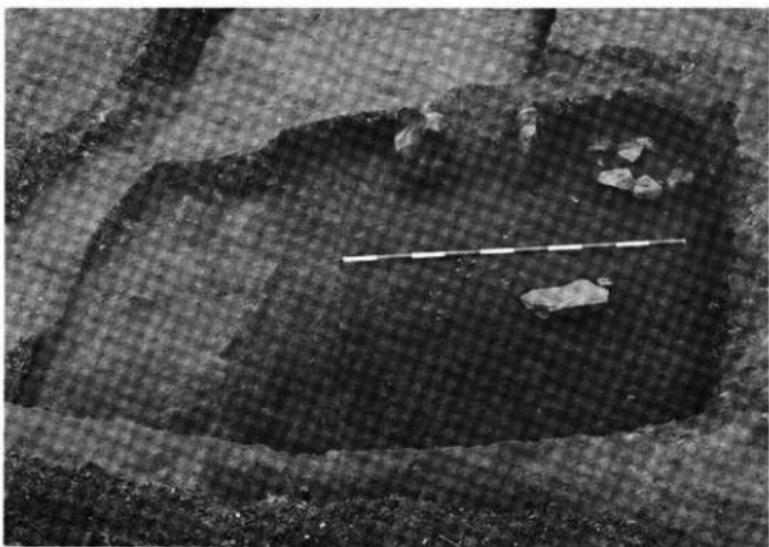


(1) 3号住居址 カマナ

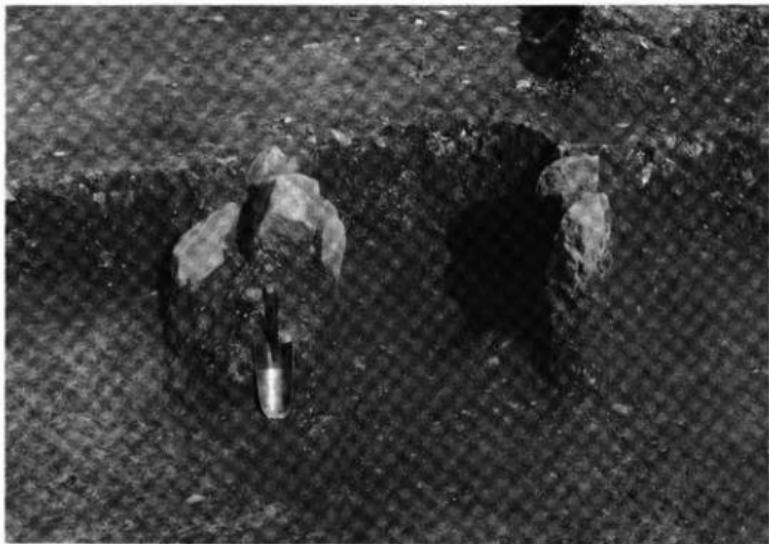


(2) 2号・3号住居址

図版 5

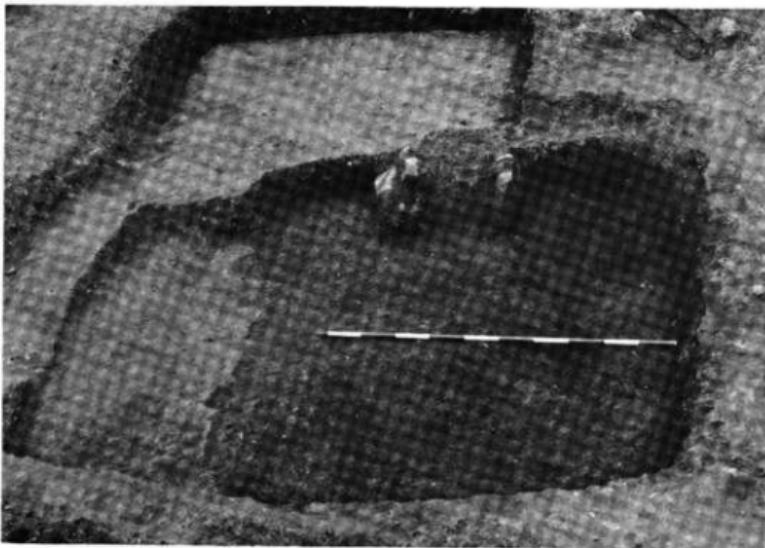


(1) 4号住居址



(2) 4号住居址カマド

圖 版 6



(1) 2・3・4号住居址



(2) 5号住居址

図版 7

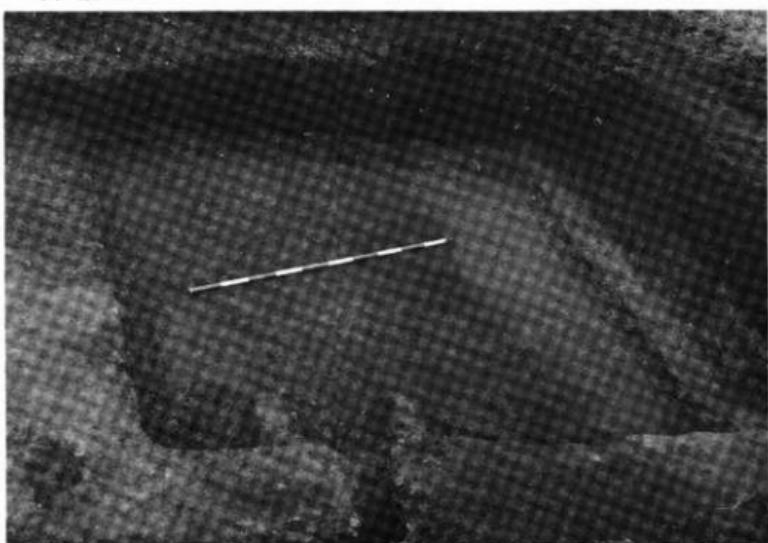


(1) 6 号 住 居 址



(2) 7 号 住 居 址

図版 8

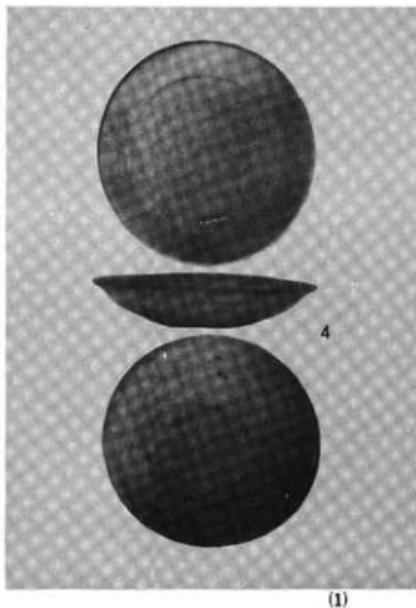


(1) 8号住居壁

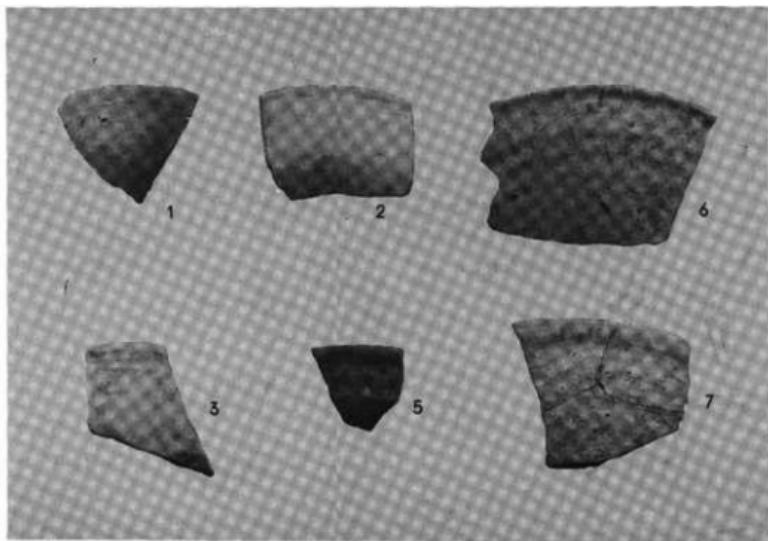


(2) 8号住居カマド

図版 9



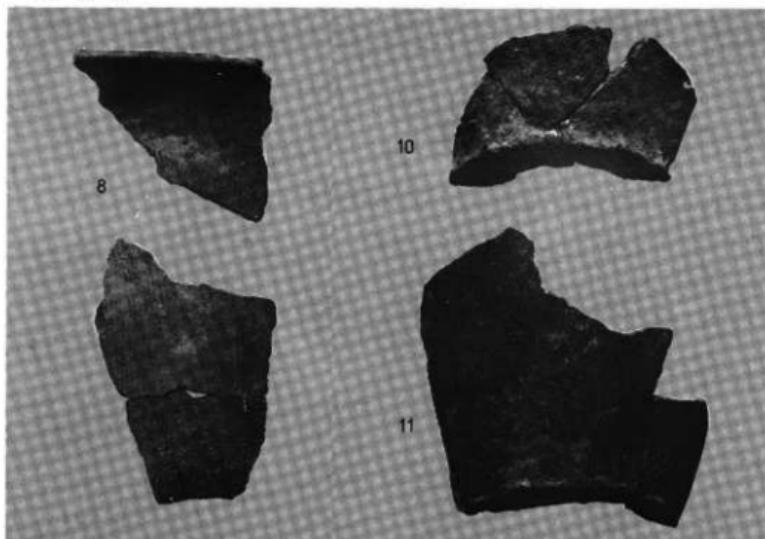
(1)



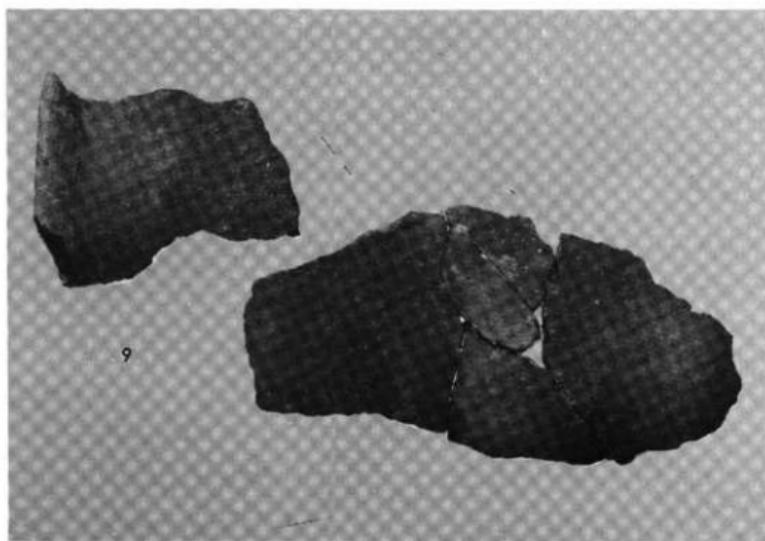
(2)

1号住居址出土遺物

図版 10



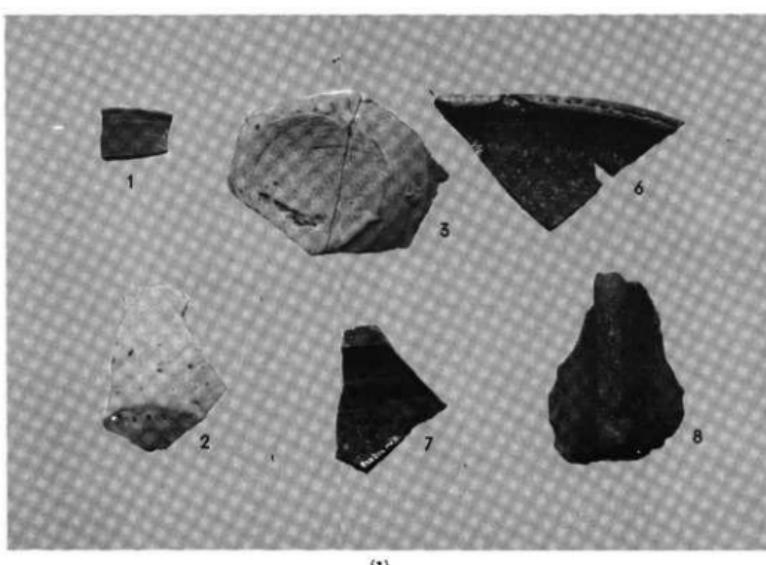
(3)



(4)

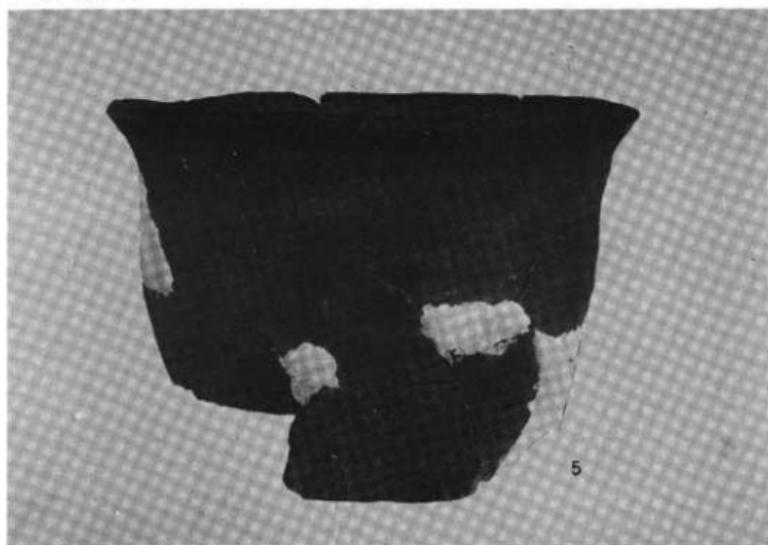
1号住居址出土遺物

圖版 11

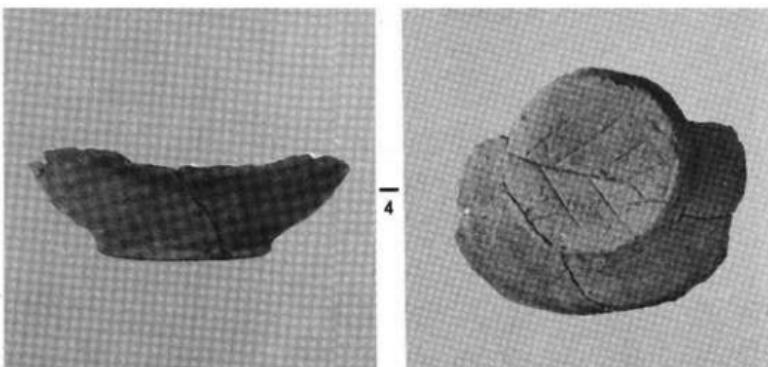


2号・3号住居址出土遺物（上段、2号住居、下段3号住居）

圖 版 12



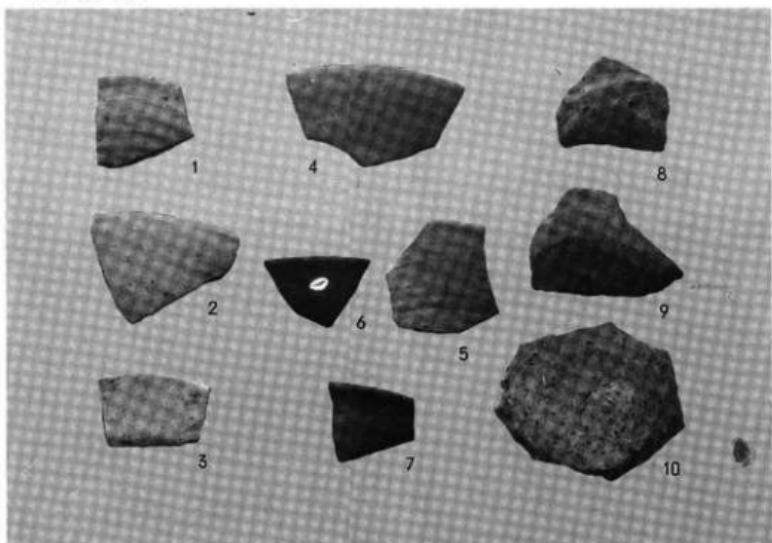
(2)



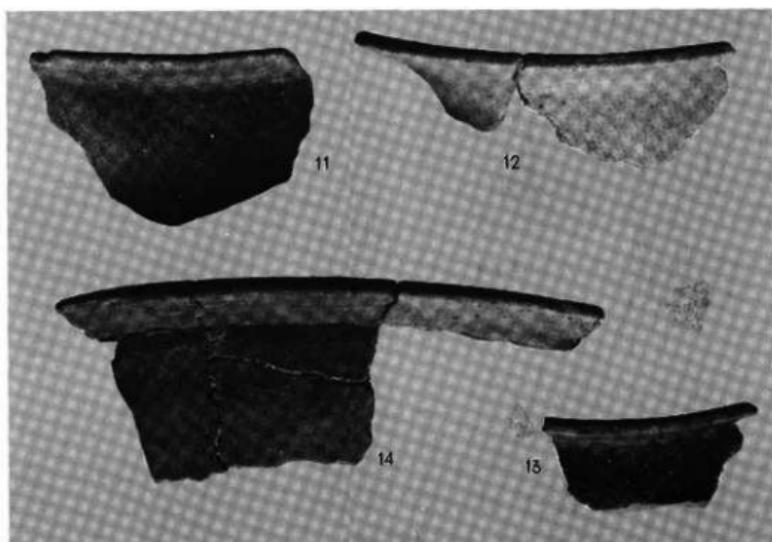
(3)

3 号住居址出土遺物

圖 版 13



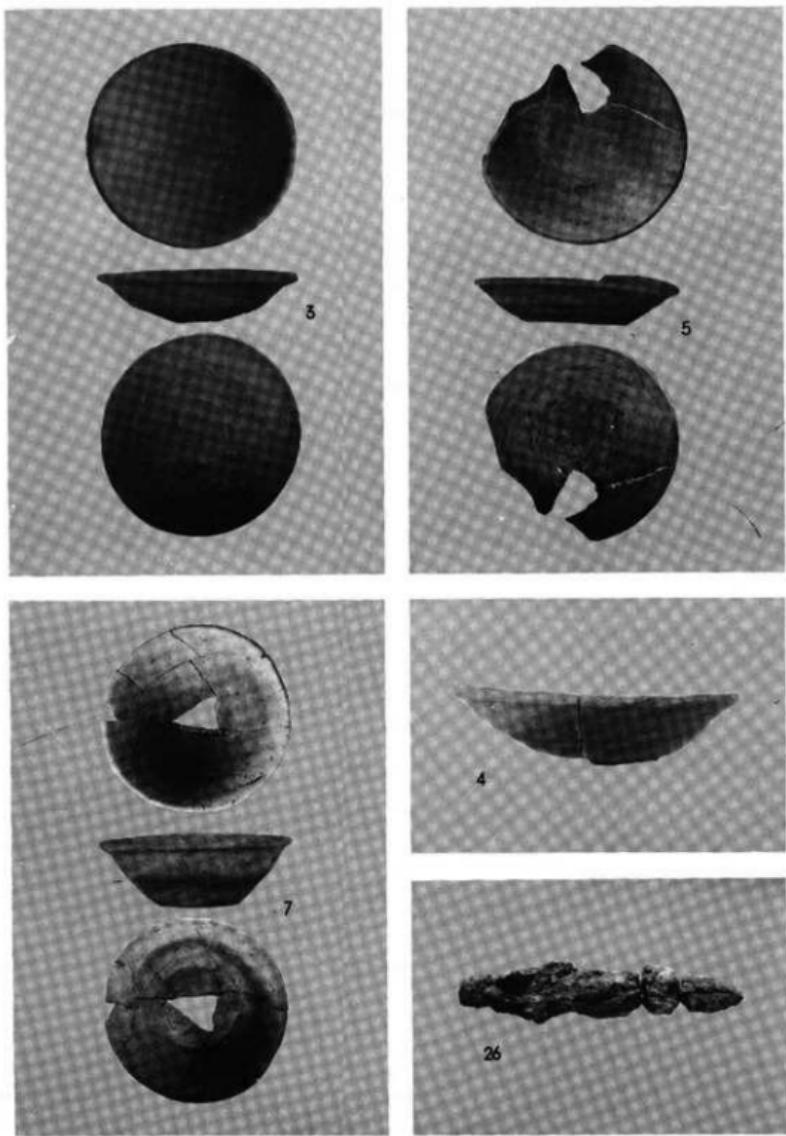
(1)



(2)

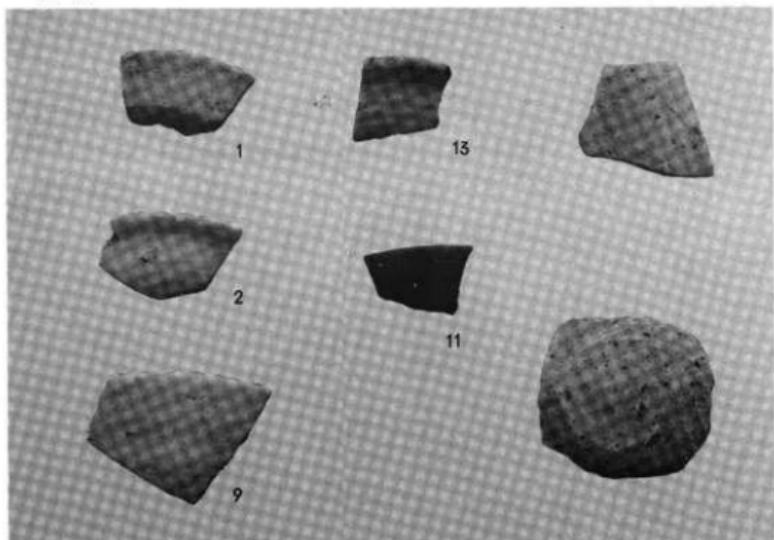
4号住居址出土遺物

図版 14

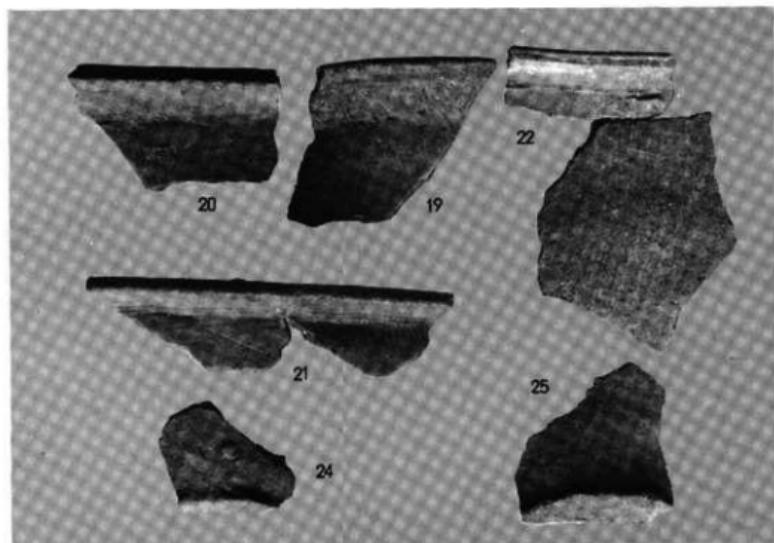


5号住居址出土遺物

図版 15



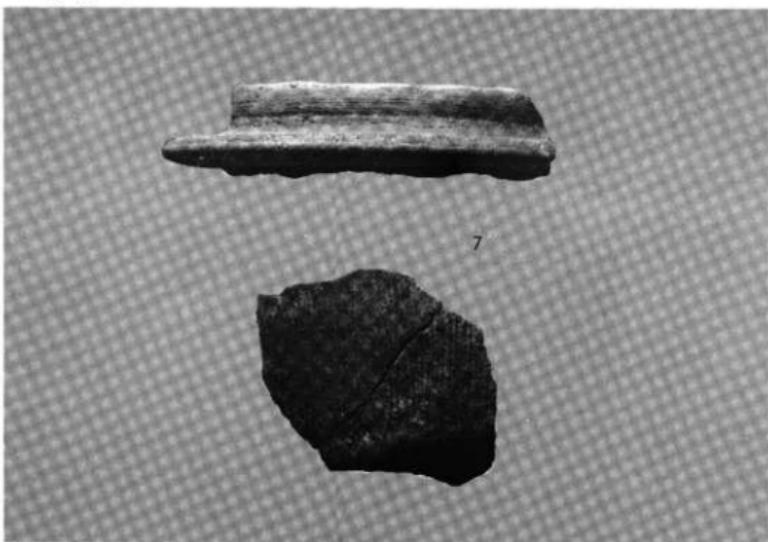
(2)



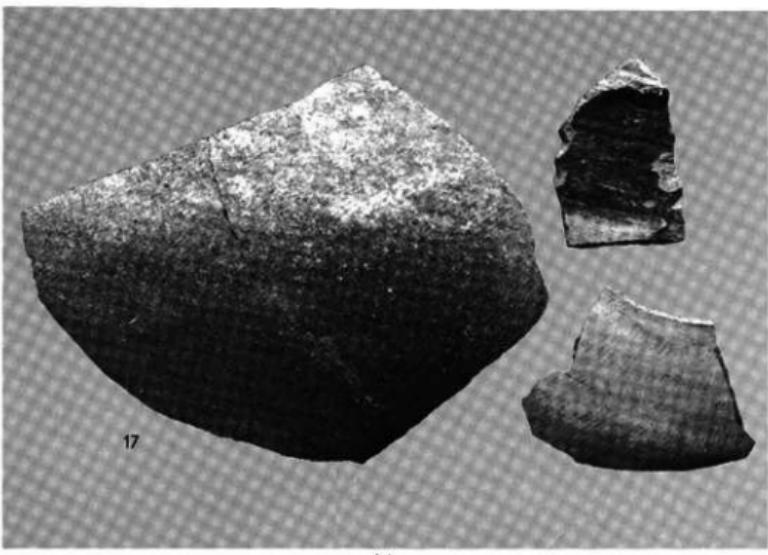
(3)

5号住居址出土遺物

圖版 16



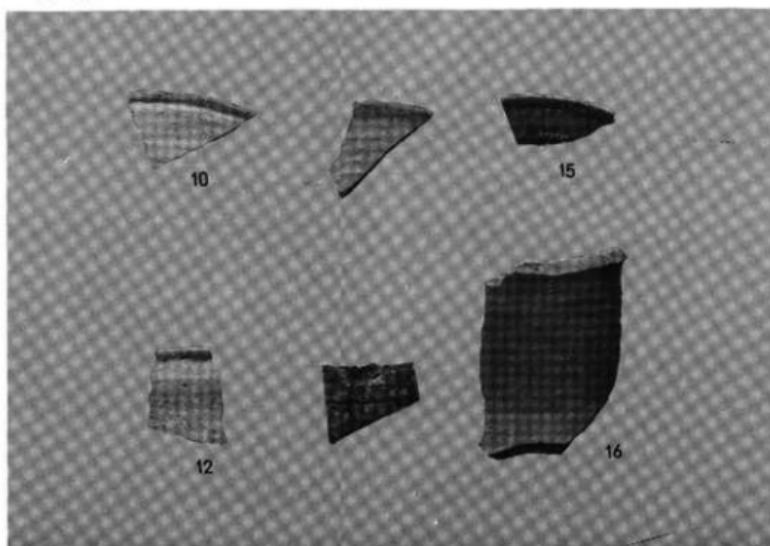
(4)



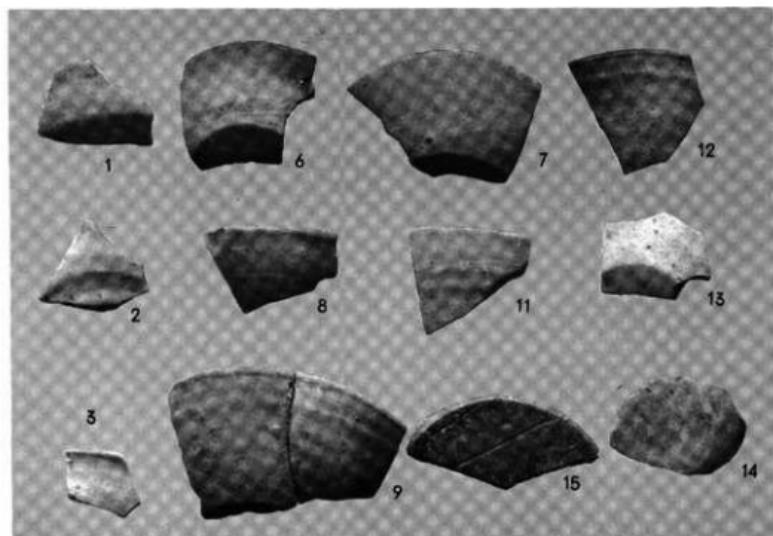
(5)

5 号住居址出土遺物

図版 17



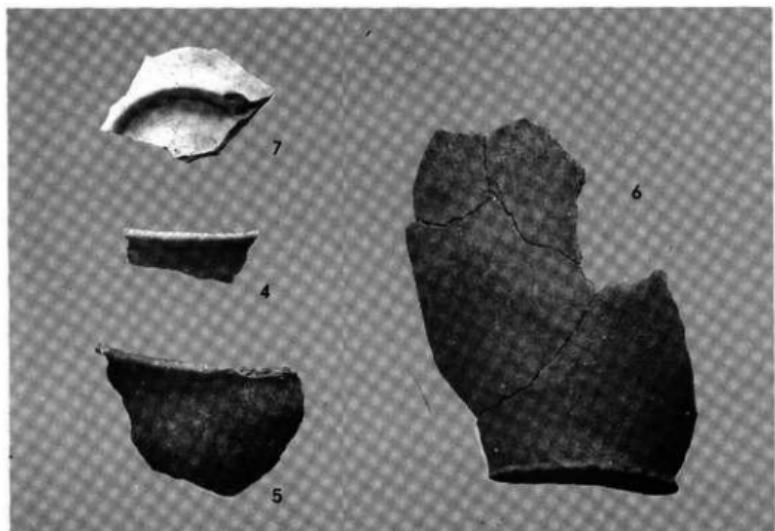
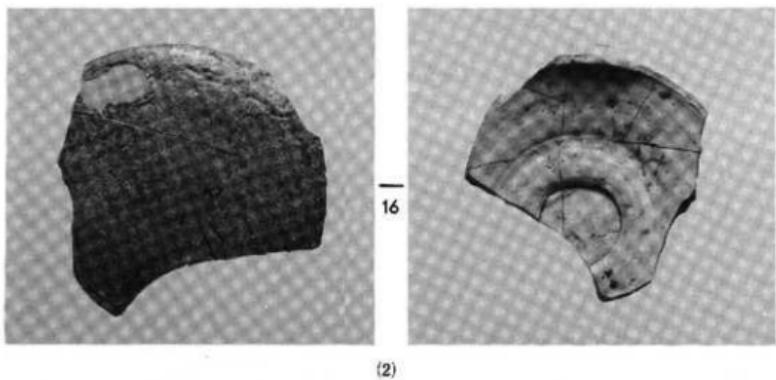
(6) 須恵器及び灰釉陶器



(1)

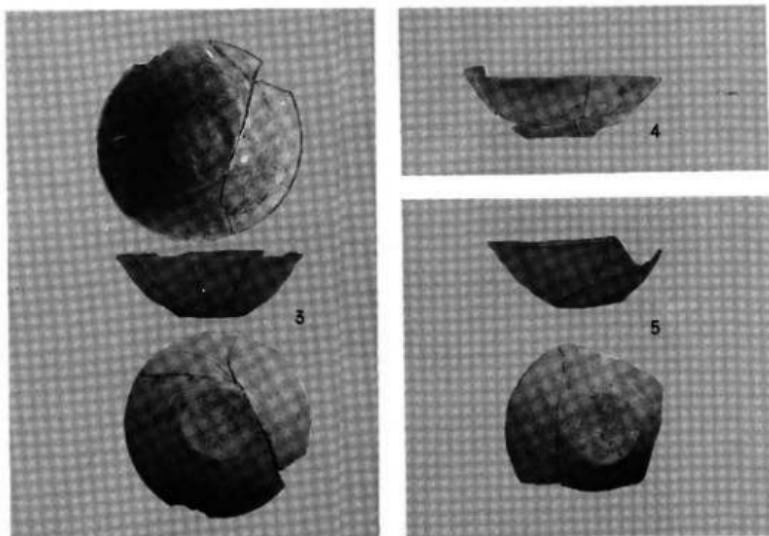
5号・6号住居址出土物（上段5号、下段6号）

図版 18

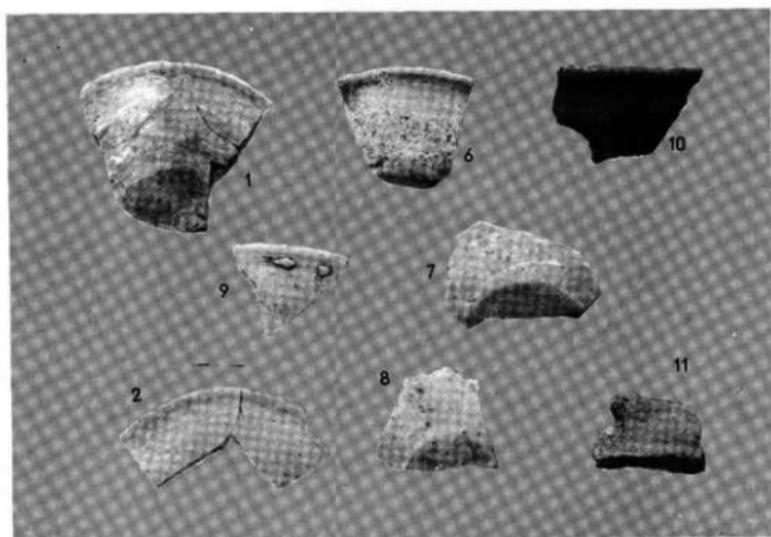


6号・7号住居址出土遺物（上段6号、下段7号）

図版 19



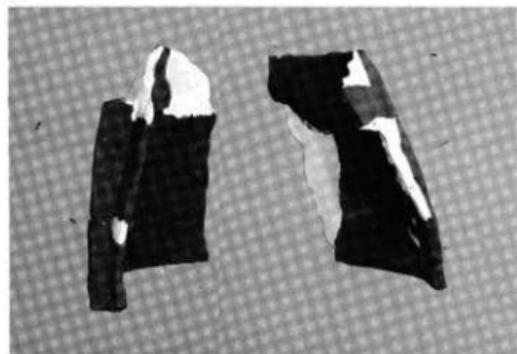
(1)



(2)

8号住居址出土遺物

図版 20



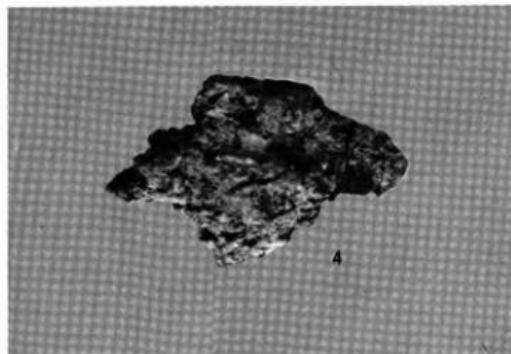
(1)

| 5



(2)

4



トレンチ出土遺物

昭和50年度

—勝沼バイパス建設に伴う—  
大切遺跡発掘調査報告書

印刷 昭和52年 3月25日

発刊 昭和52年 3月31日

発行所 山梨県教育委員会  
印刷所 ヨネヤ印刷合資会社

